



Cisco Smart Software Manager サテライト Classic ユーザ ガイド

初版 : 02/16/2015

最終更新日 : 2019/2/19

Copyright © 2015 Cisco Systems, Inc.

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティング システムの UCB パブリック ドメイン バージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記供給者は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、あるいは、取り扱い、使用、または取引慣行によって発生するあらゆる保証に関して、明示的、黙示的を問わず責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

シスコ、およびシスコ ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。シスコの商標の一覧は <http://www.cisco.com/go/trademarks> でご確認いただけます。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)



The Java logo is a trademark or registered trademark of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. or other countries.

目次

はじめに.....	v
対象読者.....	v
表記法.....	v
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	vi
Cisco Smart Software Manager サテライトの概要.....	7
Cisco Smart Software Manager サテライトについて	7
機能.....	8
システムのセットアップの概要.....	11
Cisco Smart Software Manager サテライト Classic のセットアップ.....	13
Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の設定	14
Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の使用.....	20
ライセンス、製品インスタンス、および登録トークン	20
同期のアラートとアクション	28
[レポート (Reports)] ペイン	33
[管理 (Administration)] ペイン	34
バックアップと復元.....	35
ネットワーク構成.....	40
システム設定.....	42
自動ソフトウェア配信によるサテライトのアップグレード	44
デバイス先駆型ライセンス変換機能サポート	46
後方互換性.....	49
サテライトの使用量課金のサポート	51
データのレポートおよび収集.....	51
概要.....	51
データのレポートおよび収集.....	52
ユーティリティのエンド ツー エンドのワークフロー	53
ユーティリティ対応サテライトの同期方法の変更	54
スマート エージェントからの承認更新	54
ユーティリティ モードでのサテライトの UI とライセンス レポート	54

ユーティリティのためのスマート エージェントの運用変更.....	56
ユーティリティのためのサテライトの運用変更	57
ユーティリティ対応 Smart Software Manager サテライト Classic への移行	58
トラブルシューティング	61
クライアント登録に関する問題	61
手動同期に関する問題	61
ネットワーク同期に関する問題	62
HA クラスタの障害が発生したノードの置き換え	62
サテライトの HA クラスタの管理	66
付録.....	68
サテライトへの製品インスタンスの登録	68

はじめに

[対象読者](#)、v ページ

[表記法](#)、v ページ

[マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#)、vi ページ

対象読者

このガイドは、シスコのスマート対応ソフトウェアのインストールおよびライセンスを管理するサイト管理者を対象としています。

表記法

コマンドの説明には、次のような表記法が使用されます。

表記法	説明
太字	太字の文字は、表示どおりにユーザが入力するコマンドおよびキーワードです。
イタリック	イタリック体の文字は、ユーザが値を入力する引数です。
[x]	省略可能な要素（キーワードまたは引数）は、角カッコで囲んで示しています。
[x y]	いずれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードや引数は、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x y}	必ずいずれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードや引数は、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x {y z}]	角カッコまたは波カッコが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角カッコ内の波カッコと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
variable	ユーザが値を入力する変数であることを表します。イタリック体を使用できない場合に使用されます。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen フォント	スイッチが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、かぎカッコ (<>) で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

メモ：読者に留意していただきたいことを示します。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。

注意：注意が必要なことを示します。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス リクエストの送信、追加情報の収集の詳細については、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』[英語] を参照してください。

シスコの新しい技術情報や改訂された技術情報を直接デスクトップで受信することをご希望の場合は、[What's New in Cisco Product Documentation RSS feed](#)にご登録ください。RSS フィードは無料のサービスです。

Cisco Smart Software Manager サテライトの概要

[Cisco Smart Software Manager サテライトについて](#)

[機能](#)

[システムのセットアップの概要](#)

[システム要件](#)

[対応する Web ブラウザ](#)

Cisco Smart Software Manager サテライトについて

Cisco Smart Software Manager サテライトは、Cisco Smart Licensing のコンポーネントであり、Cisco Smart Software Manager (Cisco SSM) と連携してお客様の製品ライセンスをインテリジェントに管理し、お客様が購入および消費するシスコのライセンスについてリアルタイムの可視性とレポートを提供します。

ポリシーやネットワーク到達可能性の理由から、software.cisco.com に存在する Cisco Smart Software Manager を使用してシスコ製品を直接管理することを希望しないお客様は、Cisco Smart Software Manager サテライトをオンプレミスにインストールすることもできます。デバイスやソフトウェア製品は、Cisco Smart Software Manager サテライトが顧客の施設内でホストされている Cisco Smart Software Manager の複製であるかのように登録を行い、ライセンス消費をレポートします。

[Smart Software Manager サテライト](#)には、さまざまな導入モデルがあります。

[Smart Software Manager サテライト Classic](#) :

- 小規模企業が対象
- ローカル バーチャル アカウント レベルで動作し、Cisco Smart Software Manager 上で 1 つのバーチャル アカウントをサポート (シングル テナント)
- 4,000 製品インスタンスまで拡張可能
- シスコにオンラインまたはオフラインで接続

[Smart Software Manager サテライト Enhanced Edition \(EE\)](#)

- SSM サテライト EE は、お客様のアカウントを管理する必要があるサービス プロバイダー/パートナーが対象
- 拡張性と使いやすさが向上した新しいアーキテクチャとインフラストラクチャ
- 複数のローカル アカウントをサポート (マルチテナント)
- 10,000 製品インスタンスまで拡張可能
- シスコにオンラインまたはオフラインで接続
- SSM サテライト Lite Edition (LE) では、下位方向にサテライトを登録し、階層型のサテライト構造を形成することが可能 (将来)

Smart Software Manager サテライト Lite Edition (LE) (** 将来) :

- SSM サテライト LE は、小規模企業が対象
- SSM サテライト Enhanced Edition (EE) で 1 つのローカル バーチャル アカウントをサポート
- 4,000 製品インスタンスまで拡張可能
- SSM サテライト Enhanced Edition にオンラインまたはオフラインで接続

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic のユニバーサル ISO ビルドのインストール パッケージには、次のコンポーネントが含まれています。

- CentOS 7.0
- スマート ライセンシング レシーバ
- Smart Software Manager サテライト Classic

機能

次のセクションでは、Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の機能について説明します。

Smart Call Home トランスポート ゲートウェイは、サテライトから Cisco Smart Software Manager (スマート ライセンスのバックエンド) にシスコのライセンシング データを転送するセキュアなトランスポート メカニズムです。

デフォルトの HTTPS ユーザ アクセス

インストールとセットアップの完了後に、ブラウザでサテライトにアクセスします。URL として HTTP を選択した場合、サテライトは自動的に HTTPS に変更します。

たとえば、`http://172.125.15.17:8080` と入力した場合、デフォルトで `https://172.125.15.17:8443` になります。また、最初から `https://172.125.14.17:8443` を使用することもできます。または、`http://[2001:420:44ff:1828::106]:8080` と入力した場合、デフォルトで `https://[2001:420:44ff:1828::106]:8443` になります。

迅速なサテライト登録

サテライト登録のプロセスはすぐに完了します。以前のバージョンでは、サテライトと Cisco Smart Software Manager との間およびサテライトと製品インスタンスとの間にセキュアな通信を確立するために使用される証明書をシスコが作成、署名していたため、登録まで 48 時間待機する必要がありました。スマート エージェント 1.5 以降を実行する新しいバージョンのシスコ製品では、Cisco Smart Software Manager に対するサテライト登録のプロセスが完了するとすぐに、デバイスとサテライトをユーザが管理できます。したがって、48 時間待機する必要はありません。スマート エージェント 1.5 以前をサポートするシスコ製品については、Cisco SSM にサテライトを登録後、製品を登録できるようになるまで 48 時間待機する必要があります。

製品インスタンスからの自動 HTTPS 登録

最新の Cisco Smart Software Manager サテライト Classic のリリースの場合、新しいシスコ製品は HTTPS 経由で Smart Software Manager サテライトと通信できるため、以前のように HTTPS 証明書を手動でインストールする

(<http://www.cisco.com/security/pki/certs/clrca.cer> から証明書をダウンロードしてさまざまな CLI を発行する) 必要はありません。これにより、製品インスタンスごとにこの手順を実行する煩雑な作業が不要になり、特に製品インスタンスが数千にもなる大規模なネットワークでの作業では、簡素化の効果は顕著です。

マネージド サービス ライセンス契約 (MSLA) のサポート：製品インスタンスからの使用量に基づく測定値を集約し、評価および課金のためにソフトウェア課金プラットフォーム (SBP) に中継します。

高可用性

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の高可用性アーキテクチャにより、アクティブ - スタンバイ構成での冗長性と信頼性の高いフェールオーバーが提供され、アクティブなサテライトの障害を検知し、運用の継続性とシステムの可用性を損なわずにリカバリを実行できます。

デバイス先駆型マイグレーション

現在、クラシック ライセンスからスマート ライセンスへの変換は、SWIFT データベースで利用可能な情報に基づいて、LRP または CSSM ポータル上で行われています。デバイス先駆型ライセンス変換機能 (DLC) により、デバイス/製品インスタンスが、クラシック ライセンス (RTU など) から SWIFT 上にないスマート ライセンスへの変換を開始できます。これらのスマート ライセンスは、変換時に CSSM に保管されます。この機能を動作させるには、製品を DLC 対応バージョンにアップグレードし、DLC 対応 CSSM またはサテライトに接続する必要があります。

Common Services Platform Collector (CSPC) のサテライトのサポート

サテライトが Multi Service Delivery Appliance (MSDA) 内の Common Services Platform Collector (CSPC) 仮想マシンと共存することを可能にし、この環境下にて、スマート ライセンス対応製品をサテライトに登録することができます。

サードパーティ ソフトウェア スマート ライセンス統合のサポート

サードパーティ製ソフトウェア (Unity Connection 内の Speech View、Unified Communication Manager 内の Apple Push Notification (APN) など) をサポートし、スマート ライセンス対応シスコ製品によるこれらソフトウェア サービスの使用を許可します。

ISO パッケージ化

サテライトは、ユニバーサル ISO としてパッケージ化され、以下に示すようなさまざまなタイプのイメージにエクスポートすることができます。

- **OVA イメージ**。仮想マシンの圧縮された「インストール可能な」バージョンを含む、オープン仮想アーカイブ。
- **HYPHER-V イメージ**。お客様が Microsoft Windows Server 2012 の Hyper-V 仮想化ホストにインストールできます。
- **KVM (カーネルベースの仮想マシン) イメージ**。お客様が Ubuntu および CentOS をサポートする Linux 仮想化環境にインストールできます。

注：ISO イメージを他のイメージ タイプにエクスポートする際は、シスコのサポート対象外となりますので、お客様の責任のもとで実施してください。

IPV6 のサポート

サテライトは、IPv4、デュアル スタック IPv4 および IPv6、および IPv6 アドレッシング方式をサポートします。

システム セキュリティ機能の拡張

- CentOS Nessus 脆弱性スキャンの問題に対応済み
- FIPS-140-2 準拠
- すべてのシステム暗号方式を SHA-256 にアップデート済み

システムのアップグレード

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic は、ユーザ インターフェイスから手動または自動でアップグレードすることができます。アップグレードを選択すると、現在の設定とライセンス情報でシステムが稼動したまま、サテライト ソフトウェアが変更されます。アップグレードが失敗した場合でも、サテライトが以前のバージョンに自動的にロールバックするため、サテライトの動作には影響しません。GUI のアップグレードにはシスコの自動ソフトウェア配布 (ASD) を利用しているため、ユーザは入手可能なソフトウェア アップグレードを確認できます。この機能には、アップグレードを自動的にダウンロードしてインストールするオプションも用意されています。名前が示すように、ASD でアップグレード プロセスを実行するには、サテライトが cisco.com に接続している必要があります。

注：サテライトを新しいバージョンへアップグレードすることに失敗した場合は、以前のバージョンへロールバックすることが可能ですが、アップグレードが正常に完了した場合は、以前のバージョンへロールバックすることはできません。以前のバージョンにダウングレードするには、たとえば VMware のスナップショットを使用するなどして、アップグレードの前にバックアップを実行しておく必要があります。以前のバージョンのサテライトに復元するには、バックアップ イメージを使用します。

ネットワーク ユーティリティ

ネットワーク設定とトラブルシューティング ツールは、使いやすい GUI で提供されており、現在、IPv4 アドレスおよび IPv6 アドレスをサポートしています。今後、設定に CLI を使用して、IP アドレス、DNS/NTP アドレス、ネットワーク マスク、およびデフォルト ゲートウェイを指定できるようになる予定です。ネットワーク ユーティリティ GUI を使用してネットワーク設定を変更したり、または ping、traceroute および ns lookup などのさまざまなトラブルシューティング コマンドを実行することができます。

バックアップ/復元

バックアップと復元機能により、サテライトのデータベース、設定、証明書を定期的にバックアップできます。これらのバックアップは、名称変更やダウンロードができ、同じホストにも別のホストにも復元できます。

バックエンド同期の改善

Cisco SSM との同期が改善され、製品インスタンス、ライセンスの使用状況およびライセンス エンタイトルメントの交換や、非同期状態の防止をより効果的に行えるようになっています。

設定可能なヘッダーとフッター

サテライトの UI やレポートのヘッダーとフッターは設定が可能で、ユーザにとって意味のある分類でカスタマイズできます。

エクスポート制御

エクスポート制御を使用することにより、サテライトに接続しているスマート ライセンス対応製品は、カテゴリ A および B のお客様用に制限付きトークンを作成し、エクスポート制御の規則に基づいた制限付き機能を有効にできます。

ログイン障害メッセージの削除

この機能を使用すると、ユーザのログインが成功したか失敗したかが表示されなくなるため、セキュリティを強化できます。失敗した場合は、4 秒後にログインを再試行できます。

複数のネットワーク インターフェイス

このオプションは、複数のインターフェイスを管理用トラフィックおよび製品インスタンス登録用トラフィックに分けることができます。

再起動/シャットダウン

GUI からサテライトの再起動とシャットダウンを開始できます。

システムのセットアップの概要

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic のグラフィカル インターフェイスは、左側のナビゲーション ペインとメインの作業ペインの 2 つの主要なセクションに分かれています。

注：このセクションで説明されている作業を開始する前に、スマート アカウントが割り当てられていることを確認してください。

ナビゲーション ペインを使用して、次の作業を実行できます。

- バーチャル アカウントのリストを表示する。
- 同期スケジュールを設定する。
- バーチャル アカウントに関するレポートを実行する。
- アップグレードの管理とユーザの管理を行う。
- システムのバックアップと復元を行う。
- ログ ファイルを生成し、他の管理タスクを実行する。

システム要件

注：このセクションで説明されている作業を開始する前に、スマート アカウントが割り当てられていることを確認してください。

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic のインストール用に提供されたソフトウェア イメージが次の構成になっていることを確認します。

- 200 GB のハード ディスク
- 8 GB のメモリ
- 4 基の vCPU (4,000 を超える製品インスタンスを使用する場合は、8 基の vCPU を推奨)

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic のユニバーサル ISO のインストール パッケージは、次のコンポーネントで構成されています。

- CentOS 7
- Smart Software Manager サテライト Classic

サテライトのインストールとセットアップの詳細については、『Cisco Smart Software Manager サテライト Classic インストールガイド』を参照してください。

対応する Web ブラウザ

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic では、次の Web ブラウザがサポートされています。

- Chrome 32.0 以降のバージョン
- Firefox 25.0 以降のバージョン
- Safari 6.0.5

注：ブラウザで Javascript 1.5 以降を有効にする必要があります。

使用ポート

Smart Software Manager サテライト Classic は、さまざまな通信用に以下のポートを使用します。□ファイアウォールルールで次のポート番号が設定されていることを確認してください。

- ユーザ インターフェイス：HTTPS (ポート 8443)
- 製品登録：HTTPS (ポート 443)、HTTP (ポート 80)
- CSSM への通信：HTTPS (tools.cisco.com、api.cisco.com、cloudsso.cisco.com) ポート 443

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic のセットアップ

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の設定

ネットワーク設定

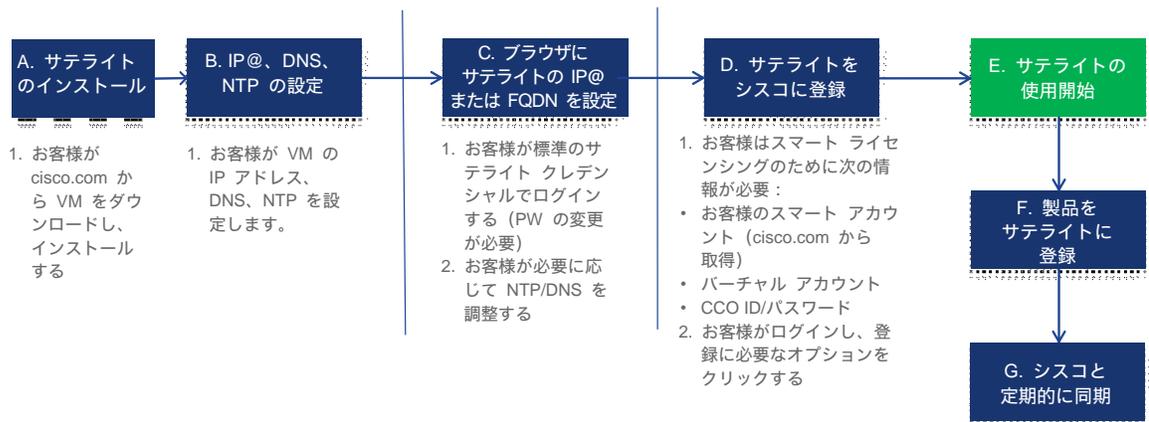
CSPC のセットアップ

サテライトの登録

サテライトの高可用性のセットアップ

Smart Software Manager サテライト Classic は、高可用性 (HA) を提供するために、スタンドアロン サーバとして、またはアクティブ/スタンバイ構成で運用できます。高可用性 (HA) モードでは、Cisco SSM サテライト Classic の高可用性が、アクティブ/スタンバイ両方のサテライト サーバに提供されます。HA 構成により、すべてのデータがアクティブ サテライトとスタンバイ サテライトの間で自動的に複製されます。アクティブ サテライトとの接続が失われた場合は自動フェールオーバーが行われ、スタンバイ サテライトが応答を開始することで、無停止でのリカバリと継続的な運用が可能になります。このアクティブからスタンバイへのスイッチオーバーには、30 秒～ 1 分かかります。アクティブ サテライトで通常の運用が再開されると、スタンバイ サテライトはシームレスにスタンバイ ロールに戻ります。

次の図は、Smart Software Manager サテライト Classic をセットアップして運用する手順を示しています。



スタンドアロン サーバまたはアクティブ サテライトとしてサテライトを展開するには、次の設定手順を使用します。

- サテライトをインストールします。
- サテライトの IP アドレス、ネットワーク マスク、およびデフォルト ゲートウェイを設定します。
- DNS および NTP パラメータを設定します。
- サテライトの管理ポータルに接続するために、<https://<satellite-ip-address>:8443> または <https://FQDN:8443> に移動します。デフォルトのユーザ名/パスワードは `admin/Admin!23` です。
- 新しいサテライトとして設定するか、既存のバックアップ ファイルから設定します。
- NTP サーバと時刻を同期します。
- ネットワーク設定を変更します。
- サテライトを Cisco Smart Software Manager に登録します。

任意の時点でスタンバイ サテライト (HA モード) を追加するには、次の設定手順を使用します。

1. アクティブ サテライトがインストールおよび登録されていることを確認します (上記参照)。
2. 新しいスタンバイ サテライトをインストールします。
3. スタンバイ サテライトの IP アドレス、ネットワーク マスク、およびデフォルト ゲートウェイを設定します。

スタンバイ サテライトは Cisco Smart Software Manager に登録しません。

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の設定

サテライトを正常にインストールし、IP アドレス、ネットワーク マスク、およびデフォルト ゲートウェイ、DNS、NTP の各パラメータを設定すると (『Smart Software Manager サテライト Classic インストレーション ガイド』を参照)、ブラウザにその IP アドレスを入力してサテライトの設定プロセスを続行できます。管理者のクレデンシャルを使用してログインすると、次のオプションから選択するよう促す画面が表示されます。

- [新しいサテライトとして設定 (Configure as new satellite)]、または
- [サテライトのバックアップファイルからデータをインポートして設定 (Configure by importing data from a satellite backup file)] : このオプションを選択すると、ハード ドライブのバックアップ ファイルを参照して復元することができます。

[次へ (Next)] をクリックして次に進みます。

ネットワーク設定

[ネットワークインターフェイス、DNS設定、NTP設定、およびCSPC固有の設定 (Network Interfaces, DNS Settings, and NTP Settings, and CSPC Specific Settings)] 画面が表示され、上記の CentOS コマンドを使用して設定された情報が示されます。[ネットワーク設定の編集 (Edit Network Settings)] を選択することにより、それらのパラメータを変更することができます。

NTP サーバと時刻を同期するには、次の手順を実行します。

1. [ネットワーク設定の編集 (Edit Network Settings)] の [NTP] タブをクリックして、サテライトの時刻を NTP サーバと同期するか、または
2. [ネットワーク設定 (Network Settings)] UI の [今すぐ時刻を同期 (Sync Time Now)] をクリックして、時刻を同期します。
3. [次へ (Next)] をクリックして、[設定方法 (Setup Method)] タブに移動します。

[設定方法 (Setup Method)] オプション

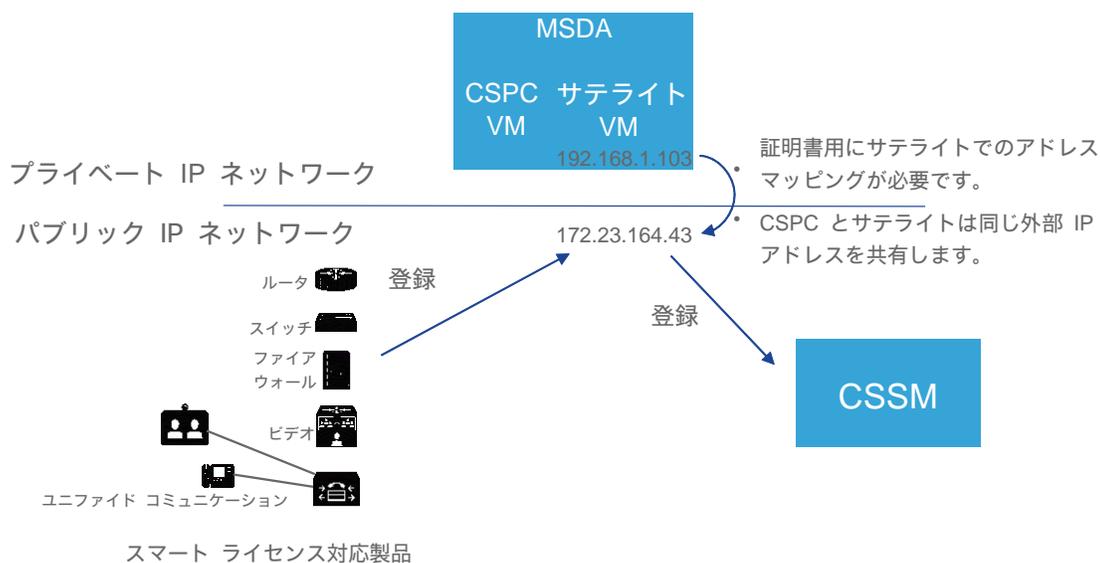
登録の前に、サテライトのネットワーク接続または手動接続を設定します。[設定方法 (Setup Method)] 画面で、[ネットワーク設定 (Network Setup)] (インターネット接続)、または [手動設定 (Manual Setup)] (インターネット接続なし) のいずれかを選択できます。

[次へ (Next)] をクリックします。

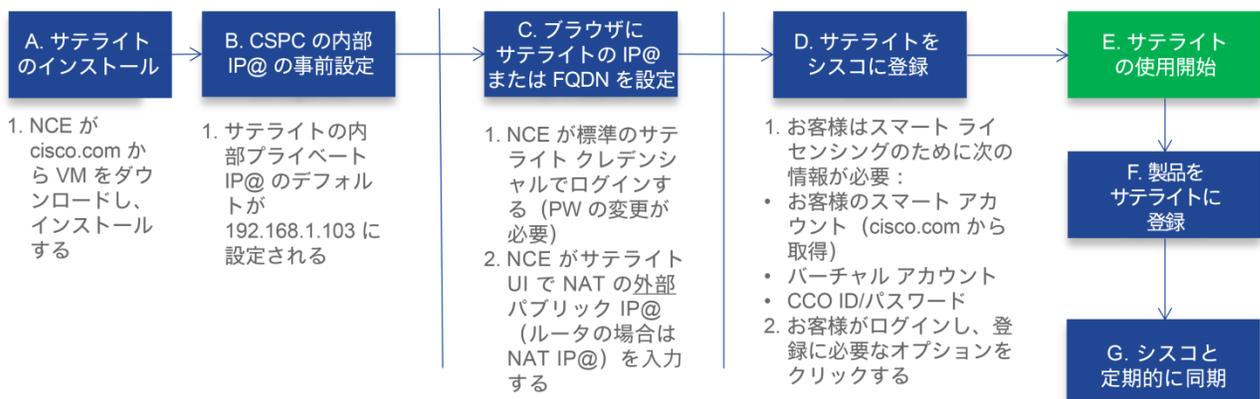
CSPC のセットアップ

CSPC (Common Services Platform Collector) 環境でない場合は、この手順をスキップします。それ以外の場合で、すでに CSPC 仮想マシンがインストールされている大規模な MSDA (Multi Service Delivery Appliance) があり、スマート ライセンス対応製品をサテライトに登録する必要がある際には、CSPC のサテライト サポートを有効にすることができます。サテライトは MSDA アプライアンス内の CSPC とは別の仮想マシンとして実行されます。ただし、相互依存関係によっては、サテライトの設定方法が異なります。CSPC は、サテライト スタンドアロン モードでのみサポートされます (高可用性はありません)。

次の図は、CSPC サテライト環境の例を示しています。この図で、MSDA はプライベート ネットワーク内にあり、スマート ライセンス対応製品はパブリック ネットワーク内にあります。そのため、サテライト ユーザは、固定アドレス変換でサテライトのパブリック IP アドレスを設定する必要があります。そうすることで、これら製品をサテライトに登録し、サテライトを Cisco Smart Software Manager (CSSM) に登録することができます。



CSPC のサテライト セットアップ プロセスは、CSPC 以外とは若干異なります。次の図に示します。



CSPC の設定手順

1. サテライトの管理ポータルに接続するために、<https://<public-satellite-ip-address>:8443> または <https://public-FQDN:8443> に移動します。デフォルトのユーザ名/パスワードは `admin/Admin!23` です。
2. 新しいサテライトとして設定するか、既存のバックアップ ファイルから設定します。
3. [次へ (Next)] をクリックします。
4. [ネットワークインターフェイス、DNS設定、NTP設定、およびCSPC固有の設定 (Network Interfaces, DNS Settings, NTP Settings, and CSPC Specific Settings)] 画面が表示されます。
5. [CSPC固有の設定 (CSPC Specific Settings)] 下に、「CSPCをご利用の場合は、[ネットワーク設定を編集 (Edit Network Settings)] を使用してパブリックネットワークIPアドレスまたはFQDNを設定してください。それ以外の場合は、このフィールドは無視してください (If you are a CPSC customer, use Edit Network Settings to configure the public Network IP Address or FQDN. Otherwise, please ignore this field) 」というメッセージが表示されます。
6. [ネットワーク設定を編集 (Edit Network Settings)] をクリックします。
7. [CSPC] タブに移動して、[有効 (Enable)] ラジオ ボタンを選択し、サテライトの外部 IP アドレスを入力します。
8. 確認メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
9. CSPC を有効にすると、[ネットワークインターフェイス (Network Interfaces)] タブのパラメータがグレー表示になります。これは、CSPC サテライト環境では内部 IP アドレスを変更できないか、サテライトがダウンするためです。[CSPC] タブでパブリック IP アドレスを [無効 (Disable)] にし、CSPC 固有の設定を使用しない場合は、[ネットワークインターフェイス (Network Interfaces)] タブはグレー表示にならず、インターフェイス アドレスを変更できます。
10. [OK] をクリックすると [ネットワーク設定 (Network Settings)] タブに戻り、設定されたパブリック ネットワーク IP アドレスが [CSPC固有の設定 (CSPC Specific Settings)] という見出しの下に表示されます。
11. この時点で、サテライトの登録に進むことができます。

注： CSPC 環境で、PfSense で NAT を設定している場合は、PfSense 設定の宛先ポート番号を使用してサテライトへの製品登録を行います。詳細は、付録を参照してください。

サテライトの登録

[セットアップ方法 (Setup Method)] 画面に続いて、[サテライトの登録 (Register Satellite)] 画面が表示されます。ここで、サテライトを Cisco SSM に登録して、セキュアな通信を維持するために必要なアイデンティティを確立する必要があります。GUI では、オンラインとオフラインの 2 種類の方法で登録できます。オンライン (ネットワーク) の場合はネットワーク接続が必要です。Cisco Smart Software Manager ポータルに接続していない場合は、オフライン (手動) で

行います。サテライトの登録プロセスが完了すると、即時に、サテライトの登録を確認する Cisco Smart Software Manager からのレスポンスを受信します。

ネットワーク経由での登録

手順

1. オンライン登録用の [ネットワーク セットアップ (Network Setup)] オプション ボタンをクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。CCO のシングル サインオン画面が表示されます。
2. [ログイン (Log In)] をクリックし、CCO のクレデンシャルを使用します。
3. シングル サインオン画面の後で、[許可 (Allow)] をクリックします。
4. サテライト名を入力します。
5. アクセスできるリストから [スマート アカウント (Smart Account)] を選択します。
6. 新しいバーチャル アカウントを追加するか、既存のアカウントを使用します。バーチャル アカウントは複数設定できます。
7. [サテライトの登録 (Register Satellite)] をクリックします。この処理にしばらく時間がかかることを示すアラートが表示されます。
8. [続行 (Continue)] をクリックして確認します。このプロセスの間にシステムが自動的に再起動します。再起動後は、再起動前に実行していた手順から処理が再開されます。[同期の設定 (Synchronization Settings)] ページに戻り、[ネットワークセットアップ (Network Setup)] オプションが選択された状態でページが表示されます。
9. [次へ (Next)] をクリックします。ライセンスの使用権と使用状況を最新に保つため、サテライトと Cisco Smart Software Manager のデータを定期的に同期する必要があります (推奨される間隔は 30 日で、少なくとも 90 日ごとに同期する必要があります)。ネットワーク接続された環境では、これをさまざまな間隔でスケジュールできます。
10. 次の画面の [サマリー (Summary)] ダイアログボックスに、サテライト設定の要約が表示されます。[サテライトの設定 (Configure Satellite)] をクリックします。登録プロセスが完了し、メイン画面の [全般 (General)] タブに戻ります。

注：この設定は後で変更が可能です。Cisco Smart Software Manager サテライト Classic ポータルの [同期 (Synchronization)] ページで同期スケジュールを設定し直すことができます。詳細については、31 ページの「[同期スケジュールの設定](#)」を参照してください。

次の実施手順

これでサテライトの設定プロセスは完了です。製品インスタンスをサテライトに登録できます。また、Cisco Smart Software Manager に移動し、更新された [サテライト (Satellites)] ペインで、新しく登録したサテライトの詳細を確認できます。

このユーザ ガイドの他のセクションを参照して、スマート ライセンスの各種作業に進んでください。

手動での登録

サテライトがネットワークから完全に切断された環境では、次の手順に従って手動でサテライトを登録します。

手順

1. オフライン登録のため [手動設定 (Manual Setup)] オプション ボタンを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

- [登録ファイルの生成 (Generate Registration File)] をクリックし、ファイルをコンピュータに保存します。登録要求ファイルが生成されます。
- Cisco Smart Software Manager ポータルに移動し、[サテライト (Satellites)] をクリックします。
- [サテライト (Satellites)] タブで、[新規サテライト (New Satellite)] をクリックします。
- [新規サテライト (New Satellite)] ダイアログボックスで、登録が必要なサテライトの名前を入力します。
- [登録ファイル (Registration File)] フィールドの横にある [参照 (Browse)] ボタンをクリックし、前の手順でサテライトで生成された登録ファイルを選択します。
- [仮想アカウント (Virtual Accounts)] フィールドに、新しいサテライトで管理する既存の仮想アカウントを選択します。適切なアクセス権 (Smart Account Administrator : スマート アカウント管理者) があれば、新しい仮想アカウントを作成することもできます。バーチャル アカウントは複数設定できます。
- [認証ファイルの作成 (Create Authorization File)] をクリックします。
- プロンプトが表示されたら、[認証ファイルのダウンロード (Download Authorization File)] をクリックし、ファイルをコンピュータに保存します。以前は登録ファイルをダウンロードするまで 48 時間待つ必要がありましたが、現在はすぐにダウンロードできるようになりました。また、新しく作成したサテライトの情報が [サテライト (Satellite)] タブにも反映されます。
- Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の [サテライトの登録 (Register Satellite)] 設定で、[参照 (Browse)] をクリックし、認証ファイルをダウンロードした場所へ移動します。
- [アップロード (Upload)] をクリックして、認証ファイルをアップロードします。
- [サテライトの登録 (Register Satellite)] をクリックします。このプロセスの間にシステムが自動的に再起動します。再起動後は、再起動前に実行していた手順から処理が再開されます。
- [同期の設定 (Synchronization Settings)] ページで [手動同期 (Manual Synchronization)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。ライセンスの使用権と使用状況を最新に保つために、サテライトと Cisco Smart Software Manager のデータは定期的に同期する必要があることを示す警告が表示されます (推奨される間隔は 30 日で、少なくとも 90 日ごとに同期する必要があります)。31 日以上 Smart Software Manager と同期していないすべての Smart Software Manager サテライト Classic インスタンスは、(32 日目以降に) 期限切れの警告を受信します。90 日間同期を行わないと、このサテライトに関連付けられた製品インスタンスはすべて自動的に登録解除され、サテライトが Smart Software Manager から削除されます。
- サテライトの [概要 (Summary)] ダイアログボックスで、概要情報を確認し、設定に問題がなければ [サテライトの設定 (Configure Satellite)] をクリックします。登録プロセスが完了し、メイン画面の [全般 (General)] タブに戻ります。

サテライトの高可用性のセットアップ

サテライトを高可用性のために設定しない場合は、これらの手順をスキップします。

ホスト名は次の値にあらかじめ設定されていて、変更できないことに注意してください。

```
satellite-node-1  
satellite-node-2
```

初期設定手順 :

- [管理 (Administration)] ペインで [高可用性 (High Availability)] タブをクリックします。
- [有効化/無効化 (Enable/Disable)] を選択して高可用性を有効にします。
- [スタンバイIPアドレス (Standby IP Address)] を入力します。
- [仮想IPアドレス (Virtual IP Address)] を入力します。

5. [保存 (Save)] をクリックします。

注：有効にすると、アクティブ サテライトでスタンバイ サテライトにデータを複製するプロセスが自動的に開始されます。ノード間での最初の Cisco SSM サテライト データの複製が完了するまで、スタンバイ サテライトは完全には利用できない可能性があります。

HA が機能しているかどうかを確認するには、<https://VIP-Address:8443> を使用してサテライト UI に接続します。
<https://Active-VM:8443> または <https://STNDBY-VM:8443> には直接アクセスしないことを推奨します。

フェールオーバー手順：

アクティブ サテライトに障害が発生すると、システムは自動的にスタンバイに切り替わります。プライマリ ノードをリカバリすると、再度アクティブになります。両方のノードが稼働している場合、このリカバリ プロセスには最大で 10 分かかります。

Zabbix による HA モニタリングの有効化

高可用性サテライト構成を実行している場合は、この展開をモニタするためのソフトウェアとして、Zabbix LLC の登録商標である Zabbix が使用されます。Zabbix はサテライト OVA に含まれているため、有効にするための特別なインストール タスクはありません。サテライトのインストールにより利用可能になります。

(プライマリ サテライトを正常に登録した後に) Zabbix にログインしてノードのさまざまなダッシュボードとステータスを確認するには、VIP アドレスとポート 9090 を使用します。たとえば、Zabbix ダッシュボード (ユーザ/パスワード：admin/zabbix) に移動するには、<http://VIP-address:9090/zabbix> を使用します。

Zabbix はアクティブ/スタンバイ構成でもサポートされています。この場合、プライマリ サテライトで障害が発生すると、VIP はスタンバイ サテライトを指し、フェールオーバー後に Zabbix にアクセスできます。

Zabbix のさまざまなモニタリング機能の使用方法の詳細については、www.zabbix.com/jp/ を参照してください。

次の手順

これでサテライトの HA 設定プロセスは完了です。

このユーザ ガイドの他のセクションを参照して、スマート ライセンスの各種作業に進んでください。

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の使用

[ライセンス、製品インスタンス、および登録トークン](#)

[同期のアラートとアクション](#)

[\[同期 \(Synchronization\) \] ペイン](#)

[\[レポート \(Reports\) \] ペイン](#)

[\[管理 \(Administration\) \] ペイン](#)

[バックアップと復元](#)

[ネットワーク構成](#)

[システム設定](#)

[自動ソフトウェア配信によるサテライトのアップグレード](#)

[デバイス先駆型ライセンス変換機能サポート](#)

[後方互換性](#)

ライセンス、製品インスタンス、および登録トークン

ライセンス

- 有効期限付きライセンス：一定期間（1 年、3 年、または購入した任意の期間）後に自動的に期限切れになるライセンス。
- 永久ライセンス：期限切れがないライセンス。
- デモ ライセンス：60 日後に期限切れになるライセンス。デモ ライセンスは、実稼働環境での利用を意図したものではありません。

製品インスタンス

製品インスタンスとは、登録トークンを使用して一意のデバイス ID (UDI) が登録された個々のデバイスまたはソフトウェアです。1 つの登録トークンで複数の製品インスタンスを登録できます。各製品インスタンスには、同じバーチャルアカウントに置かれている 1 つ以上のライセンスを割り当てることができます。

製品インスタンスは、特定の更新期間中に Cisco Smart Software Manager サテライト Classic サーバに定期的に接続する必要があります。製品インスタンスを接続しなかった場合、最後に接続してから 1 年間は引き続きライセンスが使用されますが、1 年後に ID 証明書が期限切れになります。製品インスタンスを削除すると、そのライセンスがリリースされ、バーチャル アカウント内で使用可能になります。

製品インスタンスの登録トークン

ライセンスの消費をレポートするには、製品の登録トークンをサテライトに登録する必要があります。登録トークンは、スマート アカウントに関連付けられている製品インスタンスの登録トークン テーブルに保存されます。製品を登録すると、登録トークンは不要になるため、そのテーブルから取り消したり、削除したりすることができます。登録トークンの有効日数は、1 ~ 365 日間に設定できます。

注：トークンの作成の詳細については、24 ページの「[製品インスタンスの登録トークンの作成](#)」を参照してください。

サテライトへのログイン

セキュリティを強化するため、Cisco Smart Software Manager サテライト Classic にログインする際に、成功、失敗、試行回数、最後のログインの日時、最後の失敗の日時など、対応するメッセージは表示されません。ログインが成功した場合、サテライトによりログインが許可されます。失敗した場合、ログイン ダイアログボックスのログイン ボタンは 4 秒間無効になり、その間は再ログインができません。

失敗したすべての試行は、「日付/時刻/IP アドレス/[ユーザ] 成功/失敗/理由」という形式を使用してログ ファイルに記録されます。この情報は、[管理 (Administration)] タブでログ zip ファイルをダウンロードすることにより入手できます。ログのダウンロード後、そのファイルを unzip すると、各試行（成功または失敗）とそれに関連する詳細情報を確認できます。

仮想アカウント

仮想アカウントは、ライセンスと製品インスタンスの集合体です。会社のライセンスを論理的に整理して、各エンティティを個別に管理することができます。バーチャル アカウントを使用することで、営業部門、製品タイプ、IT グループなど、独自の用途に合わせてライセンスを整理できます。たとえば、会社を地域で分ける場合、地域ごとにバーチャルアカウントを割り当てて、その地域のライセンスおよび製品インスタンスを保持できます。

スマート アカウントで特定のサテライトに割り当てられたバーチャル アカウントだけを表示できます。1 つのサテライトに複数のバーチャル アカウントを割り当てることはできますが、1 つのバーチャル アカウントを複数のサテライトに割り当てることはできません。

バーチャル アカウントの使用に際しては、次の点に注意してください。

- Cisco Smart Software Manager サテライト Classic では、バーチャル アカウントを表示することはできますが、作成または削除することはできません。仮想アカウントの作成と管理は、software.cisco.com [英語] のスマート アカウントの管理ページで行う必要があります。
- すべての新しいライセンスと製品インスタンスは、バーチャル アカウントに配置されます。製品インスタンスの登録時にはバーチャル アカウントを選択します。
- サテライトを Cisco Smart Software Manager と同期することで、バーチャル アカウントの最新のデータを表示および取得できるようになります。

[バーチャル アカウント (Virtual Account)] ペイン

[バーチャル アカウント (Virtual Account)] ペインには、次の内容が含まれています。

- アラート バー
- [全般 (General)] タブ
- [ライセンス (Licenses)] タブ
- [製品インスタンス (Product Instances)] タブ
- [イベント ログ (Event Log)] タブ

アラート バー

ライセンス契約に準拠していないライセンスや製品インスタンスがある場合、アラートが生成されます。アラート バーには、仮想アカウントのアラートの要約が表示されます。[ライセンス (Licenses)] タブと [製品インスタンス (Product Instances)] タブのテーブルにアラートが表示され、アラート バーにその要約が表示されます。

[メジャー (Major)] または [マイナー (Minor)] ボタンを選択すると、アラート バーがアラート ボタンの下に表示され、1 行に 1 つずつアラートが表示されます。アラートがない場合、アラート ボタンは非表示になります。

アラートでは、アラートの説明が表示されます。アラートの右側には、適切なアクションへのリンクが表示されます。

アラートの右側には、[アクションの期限 (Action Due)] フィールドが表示され、アラートでのアクションの実行にどのくらいの時間が残っているかが示されます。

- [メジャー (Major)] ボタンを使用すると、メジャー アラート (非準拠の状態など) をすべて表示し、特定のアラートに対してアクションを実行できます。他のアクション リンクに加え、すべてのメジャー アラートには、アラートの解決方法に関する情報を含む [トラブルシューティング (Troubleshooting)] ダイアログボックスが表示されます。
- [マイナー (Minor)] ボタンを使用すると、マイナー アラート (期限切れが近いライセンスなど) をすべて表示し、特定のアラートに対してアクションを実行できます。制限時間内にアクションを実行しないと、マイナー アラートはメジャー アラートへと移行します。

マイナー アラートには、次のオプションがあります。

- [後で通知 (Remind Later)] : 通知は、[アクションの期限 (Action Due)] フィールドに表示される時間の半分以上が経過するまで行われなくなります。
- [却下 (Dismiss)] : 通知は、次回エラーが発生するまで表示されません。
- [アラートの非表示 (Hide Alerts)] ボタンを使用すると、アラートを折りたたむことができます。

[全般 (General)] タブ

[全般 (General)] タブには、特定の仮想アカウントとその仮想アカウントに関連付けられている登録トークンに関する情報が表示されます。[全般 (General)] タブでは、次のことを実行できます。

- バーチャル アカウントに関する情報を表示する。
- バーチャル アカウントを編集する。
- 既存の製品登録インスタンスの登録トークンのリストを表示する。

- 新しい製品インスタンスの登録トークンを作成する。
- 登録トークンのコピー、ダウンロード、または取り消しを行う。取り消された登録トークンは、リストに残したままにすることも削除することもできます。

[ライセンス (Licenses)] タブ

[ライセンス (Licenses)] タブには、仮想アカウントのすべてのライセンスに関する情報が表示されます。[ライセンス (Licenses)] タブでは、次のことを実行できます。

- バーチャル アカウントのすべてのライセンスのリストを表示する。
- ライセンス ID 別にライセンスをフィルタする。
- 特定のライセンスとそれを使用する製品に関する情報を表示する。
- 特定のライセンスのアラートに関する情報を表示し、問題を解決する。
- ライセンスのリストを `.csv` ファイルにエクスポートする。

注：Cisco Smart Software Manager サテライト Classic では、ライセンスを転送することはできません。ライセンスの転送は、Cisco Smart Software Manager で実行できます。

[製品インスタンス (Product Instances)] タブ

[製品インスタンス (Product Instances)] タブには、仮想アカウントのすべての製品インスタンスに関する情報が表示されます。[製品インスタンス (Product Instances)] タブでは、次のことを実行できます。

- すべての製品インスタンスのリストを表示する。
- バーチャル アカウント間で製品インスタンスを転送する。
- 製品 ID 別に製品インスタンスをフィルタする。
- 特定の製品インスタンスとそれが消費するライセンスに関する情報を表示する。
- 特定の製品インスタンスのアラートに関する情報を表示する。
- 特定の製品インスタンスをバーチャル アカウントから削除して、スマート アカウントからも削除する。
- 製品インスタンスのリストを `.csv` ファイルにエクスポートする。

[イベント ログ (Event Log)] タブ

[イベント ログ (Event Log)] タブには、仮想アカウントのすべてのイベントに関する情報が表示されます。イベントは、Cisco Smart Software Manager サテライト Classic を使用して実行したアクション（ライセンスおよび製品の追加と削除、バーチャル アカウントの追加と名前変更など）です。[イベント ログ (Event Log)] タブでは、次のことを実行できます。

- 選択したバーチャル アカウントのすべてのイベントの詳細リストを表示する。
- ライセンス別または製品別にイベントをフィルタする。
- リストを `.csv` ファイルにエクスポートする。

注：サテライトを Cisco Smart Software Manager と同期することで、バーチャル アカウントの最新のデータを表示または取得できるようになります。

バーチャル アカウント情報の表示

手順

1. ナビゲーション ペインで、仮想アカウントをクリックします。
2. [全般 (General)] タブをクリックします。

製品インスタンスの登録トークンの作成

製品をスマート ライセンスの対象として登録するには、製品インスタンスの登録トークンを使用します。製品を登録し、製品インスタンスを特定のバーチャル アカウントに追加するには、トークンを生成する必要があります。新しいトークンを作成すると、製品が登録されるそのバーチャル アカウントの [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルに追加されます。

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic では、サテライトに接続されたスマート ライセンス対応の製品に対して、輸出規制法に従って、制限付きトークンを生成したり、制限付き機能を有効にしたりすることができます。制限付きトークンへの登録に失敗している製品では、制限付き機能をオンにすることができません。このオプションは、この機能の使用が許可されているアカウントでのみ使用可能です。

Cisco Smart Software Manager との同期中にサテライトは、以前の同期処理により Cisco SSM から受信したスマート アカウント カテゴリ (A、B、または C) を調べ、それに応じて、制限付きトークンの生成を許可または拒否します。

顧客カテゴリは次のとおりです。

- カテゴリ A : 欧州連合ライセンス無料 (EULF) - 制限付き機能は許可されます。お客様は、EULF/東部近隣諸国 (ENC) の国々 (米国、カナダ、EU (欧州連合) 、日本、オーストラリア、およびニュージーランドなど) 内にいます。
- カテゴリ B : 非 EULF、市民 - 制限付き機能は許可されます。EULF/ENC 外の非公的機関の顧客は、非公的機関であることを確認するためのスクリーニングが必要です。
- カテゴリ C : 非 EULF、政府/軍 - 制限付き機能は許可されません。米国輸出規制が適用される EULF/ENC 外の公的機関 (政府、軍、政府所有企業など) 。カテゴリ C のお客様には、Cisco Smart Satellite Manager またはサテライト内で制限付きトークンを生成することが許可されていません。以下の「注」を参照してください。
- C 保留中 : レビュー保留中 - 制限付き機能は許可されません。

注 : 顧客分類がカテゴリ B からカテゴリ C に変わると、制限付きトークンの生成は許可されなくなり、それまでのトークンは失効し、有効期限の日付は「失効 (Revoked) 」に変更されます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、既存の仮想アカウントをクリックします。
2. [全般 (General)] タブで、[新規トークン (New Token)] をクリックします。
3. [登録トークンの作成 (Create Registration Token)] ダイアログボックスで、次の情報を入力します。

名前	説明
[バーチャルアカウント (Virtual Account)] フィールド	登録トークンを作成するバーチャル アカウントがすでに入力されています。
[説明 (Description)] フィールド	登録トークンの説明。 注 : トークンの特定に役立つ説明を指定します。
[有効期限 (Expire After)] フィールド	トークンをアクティブにする期間 (最大 365 日) 。デフォルトは、30 日です。

4. カテゴリ A または B のお客様は、[このトークンで登録されている製品に輸出規制機能を許可する (Allow export controlled functionality on the product registered with this token)] ボックスをクリックして、制限付きトークンを生成することができます。カテゴリ C のお客様の場合、このオプションは使用不可になっており、制限なしトークンのみ生成可能です。
5. [トークンの作成 (Create Token)] をクリックします。

製品インスタンスの登録トークンの表示

バーチャル アカウントの登録トークンを確認できます。これらの登録トークンを使用して、バーチャル アカウントに新しい製品インスタンスを登録できます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
2. [全般 (General)] タブをクリックします。
このページには、[バーチャル アカウント (Virtual Account)] と [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Tokens)] の 2 つのセクションがあります。
3. [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Tokens)] では、テーブルに次の詳細が表示されます。

名前	説明
[トークン (Tokens)] フィールド	生成されたトークンの ID。リンクをクリックして、トークンの文字列全体を表示したりコピーしたりできます。
[有効期限日 (Expiration Date)] フィールド	トークンをアクティブにする期間。
[説明 (Description)] フィールド	登録トークンの説明。
[作成者 (Created by)] フィールド	このトークンを作成したユーザ。
[アクション (Actions)] リンク	次のいずれかのアクションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [コピー (Copy)] : トークンをクリップボードにコピーします。 • [ダウンロード (Download)] : トークンをテキストファイル形式でローカル マシンにダウンロードします。 • [取り消し (Revoke)] : トークンを取り消します。取り消されたトークンは使用できなくなります。 • [削除 (Remove)] : 取り消したトークンを [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルから削除します。取り消したトークンまたは期限切れのトークンでのみ利用できます。

製品インスタンスの登録トークンの管理

手順

1. ナビゲーション ペインで、既存の仮想アカウントをクリックします。
2. [全般 (General)] タブの [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルで、管理するトークンを見つけます。
3. [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルで、次のいずれかのアクションを実行します。
 - [コピー (Copy)] : トークンをクリップボードにコピーします。
 - [ダウンロード (Download)] : トークンをテキスト ファイル形式でローカル マシンにダウンロードします。
 - [取り消し (Revoke)] : トークンを取り消します。取り消されたトークンは使用できなくなります。
 - [削除 (Remove)] : 取り消したトークンを [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルから削除します。

バーチャル アカウントのライセンスの表示

注 : Cisco Smart Software Manager サテライト Classic では、バーチャル アカウント間でライセンスを転送することはできません。ライセンスの転送は、Cisco Smart Software Manager で実行できます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
 2. [ライセンス (Licenses)] タブをクリックします。
 3. ライセンス リストをこのペインから .csv ファイルにエクスポートできます。
 4. ライセンス ID をクリックして、ライセンスに関する詳細情報を表示します。
- [ライセンスの詳細情報 (License Detailed Information)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、[概要 (Overview)]、[製品インスタンス (Product Instances)]、[イベント ログ (Event Log)] のタブがあります。

バーチャル アカウントの製品インスタンスの表示

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
2. [製品インスタンス (Product Instances)] タブをクリックします。
3. 製品インスタンスのリストを .csv ファイルにエクスポートできます。
4. 製品インスタンス名をクリックして、製品インスタンスに関する詳細情報を表示します。

注 : 製品インスタンスの右端にあるクラスタ セットアップ アイコンは、特定の製品インスタンスのルータが高可用であることを示します。

[製品インスタンスの詳細 (Product Instance Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、[概要 (Overview)] と [イベント ログ (Event Log)] のタブがあります。

次の実施手順

製品インスタンスを別のバーチャル アカウントに転送したり、製品インスタンスを削除したりすることができます。

製品インスタンスの転送

注意：製品インスタンスをあるバーチャル アカウントから別のバーチャル アカウントに転送しても、対応するライセンスは転送されません。ライセンスは、Cisco Smart Software Manager で別途転送する必要があります。

手順

1. ナビゲーション ペインで、既存のバーチャル アカウントをクリックします。
2. [製品インスタンス (Product Instances)] タブをクリックします。
3. [製品インスタンス (Product Instances)] テーブルで、転送する製品インスタンスを見つけます。

注：表示されるエントリ数を制限するには、[フィルタ (Filter)] コンボボックスに値を入力し、[フィルタ (Filter)] をクリックします。

4. [アクション (Actions)] 列で、転送する製品インスタンスの [転送 (Transfer)] リンクをクリックします。
5. [製品インスタンスの転送 (Transfer Product Instance)] ダイアログボックスで、次の情報を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	製品インスタンス名と製品名。
[転送先 (Transfer To)] ドロップダウン リスト	製品インスタンスを転送する仮想アカウントを選択します。

6. [OK] をクリックして、製品インスタンスを転送します。

製品インスタンスの削除

製品インスタンスをサテライトから削除すると、テーブルからのみ削除されます。製品インスタンスで使用されていたライセンスは引き続き使用可能であり、他の製品で使用できます。製品インスタンスを Cisco Smart Software Manager またはサテライトに再登録する必要があります。これにより、Cisco Smart Software Manager またはサテライトが製品と通信を再開できるようになります。

手順

1. ナビゲーション ペインで、既存のバーチャル アカウントをクリックします。
2. [製品インスタンス (Product Instances)] タブをクリックします。
3. [製品インスタンス (Product Instances)] テーブルで、削除する製品インスタンスを見つけます。

注：表示されるエントリ数を制限するには、[フィルタ (Filter)] コンボボックスに値を入力し、[フィルタ (Filter)] をクリックします。

4. [アクション (Actions)] 列で、削除する製品インスタンスの [削除 (Remove)] リンクをクリックします。
5. [製品インスタンスの削除の確認 (Confirm Remove Product Instance)] ダイアログボックスで、[製品インスタンスの削除 (Remove Product Instance)] をクリックします。

イベント ログの表示

イベント ログには、イベント メッセージ、イベントの時刻、およびイベントに関連付けられたユーザ（存在する場合）が表示されます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
2. [イベント ログ (Event Log)] タブをクリックします。
3. イベント リストをこのペインから .csv ファイルにエクスポートできます。

CSV ファイルへのエクスポート

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
2. [ライセンス (License)]、[製品インスタンス (Product Instances)]、[イベント ログ (Event Log)]、または [ユーザ (Users)] ページで、右上にある [CSV] アイコンをクリックします。
3. [ファイルの保存 (File Save)] ダイアログボックスを使用して、ファイルをハード ドライブに保存します。

注：ファイルの保存には、プラットフォーム独自のダイアログボックスが使用されます。このダイアログボックスは、使用するブラウザやオペレーティング システムによって若干異なります。

同期のアラートとアクション

同期プロセスでは、サテライトと Cisco SSM の間の接続を設定して、cisco.com を介してさまざまな間隔でデータを転送することができます。

サテライトと Cisco SSM の間の同期プロセスが改善され、次の状況进行处理できるようになりました。

- a) 製品インスタンスやライセンスの付与/消費において発生することがある非同期状態の頻度低下。
- b) 同期でサテライトに正しく反映されない Cisco Smart Software Manager 内の権限変更を軽減するための「リーン」なデータ モデルへの変更。
- c) 同期ネットワーク応答時間の短縮。
- d) サテライトと Cisco SSM 間のデータの不一致の原因となりうる、VM スナップショット、バックアップと復元、または非同期シナリオの処理。
- e) サテライトから送信された製品インスタンスを Cisco SSM が更新できないエラー状態（すなわち、Cisco SSM の別のバーチャル アカウントから送信されたため）に対する適切な処理。

Cisco SSM は、すべてのエンタイトルメント、バーチャル アカウント、およびメタデータ情報の正しいソースです。一方、サテライトは、製品インスタンスとライセンス消費情報の正しいソースです。これは、各システムが他方のシステムから送信されるすべてのデータを信頼できるソースとして処理することを意味しています。

以前は、サテライトと Cisco SSM は差分同期モデルで動作しており、増分の変更のみが送受信されていました。しかし、サテライトのデータベースが以前の VM スナップショットやバックアップから復元される場合、このような差分同期プロセスではライセンスの付与と消費、製品インスタンス数の不一致が生じる可能性があります。データがいつ作成さ

れたかにかかわらず、サテライト側で完全なデータのリストをコンパイルして送信する必要があることを Cisco SSM が検出すると、差分同期や標準同期ではなく完全同期が実行されます。これに対して、Cisco SSM 側でも、現在の正しいソースの要素一覧をコンパイルし、これをサテライトに渡します。

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の作業ペインには次の同期リンク、ボタン、およびアラートが表示されます。

- **[前回の同期 (Last Synchronization)] (ハイパーリンク)**
- **[同期を開始 (Synchronize Now)]/[手動同期 (Manual Synchronization)] ボタン**
- **同期のアラート**

[前回の同期 (Last Synchronization)]

このハイパーリンクは作業ペインの右上にあります。このリンクから、さまざまな同期アクティビティの同期設定とロギングを確認できます。このリンクをクリックします。[ステータス (Status)] と [設定 (Settings)] の 2 つのセクションから成るダイアログが表示されます。

[ステータス (Status)] セクションでは、[前回の同期の実行 (Last Successful Synchronization)] と [次回の同期の期限 (Next Synchronization Due By)] の情報を確認できます。[ステータス (Status)] フィールドの横に、[ログの表示 (View Log)] リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、同期アクティビティに関するテーブルが表示され、同期の実行時刻、種類、ステータスを確認できます。サテライトでのすべての時間は、UTC でログ記録されます。

[設定 (Settings)] セクションでは、選択した同期モードに関する詳細を確認できます。同期の試行結果も表示されます。同期の設定を変更するには、[設定 (Settings)] フィールドの横にある [編集 (Edit)] ボタンをクリックします。これらの設定の詳細については、31 ページの「[同期スケジュールの設定](#)」を参照してください。

同期データ ファイルをダウンロードするには、このダイアログの右下にある [同期データ ファイルの表示 (View Synchronization Data File)] リンクをクリックします。

[同期を開始 (Synchronize Now)]/[手動同期 (Manual Synchronization)]

この [同期を開始 (Synchronize Now)] トグル ボタンは、ペインの右上にある [前回の同期 (Last Synchronization)] の横に表示されます。このボタンは、選択した同期モードに応じて切り替わります。それぞれのシナリオを次に示します。

- [同期 (Synchronization)] ページの [同期の設定 (Synchronization Settings)] セクションで [ネットワーク同期 (Network Synchronization)] モードを選択した場合、[同期を開始 (Synchronize Now)] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、サテライトのデータをすぐに同期して更新できます。この同期方法は、ネットワークが展開された環境でのみ使用できます。

注：サテライトと Cisco Smart Software Manager の間の通信用にポート 443 を有効にする必要があります。

- [同期 (Synchronization)] ページの [同期の設定 (Synchronization Settings)] セクションで [手動同期 (Manual Synchronization)] モードを選択した場合、[手動同期 (Manual Synchronization)] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ファイル ベースの同期オプションを使用できます。

注：詳細については、31 ページの「[同期スケジュールの設定](#)」を参照してください。

同期のアラート

同期のアラートは差し迫った問題を示しています。サテライトでは、アラートは作業ペインのアラート バーに表示されます。状況に応じて、次の 2 種類のアラートが生成されます。

- [同期期限切れ (Synchronization Overdue)] : このアラートは、シスコとの同期が 31 日以上行われていない Cisco Smart Software Manager サテライト Classic があると表示されます。90 日以内に同期を行わないと、このサテライトに関連付けられた製品インスタンスはすべて自動的に登録解除され、サテライトが Cisco Smart Software Manager から削除されます。
- [同期失敗 (Synchronization Attempt Failed)] : このアラートは、Cisco Smart Software Manager からシスコへのデータ同期の試行時にネットワーク接続に失敗すると表示されます。

注 : アラートがない場合、アラート ボタンは非表示になります。

アラートでは、アラートの説明が表示されます。アラートの右側には、適切なアクションへのリンクが示されます。たとえば、[同期失敗 (Synchronization Attempt Failed)] アラートの場合は、[却下 (Dismiss)] ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、次回このエラーが発生するまでアラート メッセージをクリアできます。

[同期 (Synchronization)] ペイン

[同期 (Synchronization)] ペインには、次のセクションがあります。

- [同期モード (Synchronization Mode)]
- [同期データのセキュリティ設定 (Synchronization Data Security Settings)]
- [同期スケジュール (Synchronization Schedule)] は、[ネットワーク同期モード (Network Synchronization mode)] を選択している場合に使用できます。

注 : 詳細については、31 ページの「[同期スケジュールの設定](#)」を参照してください。

[同期モード (Synchronization Mode)]

このセクションでは、サテライトと Cisco SSM の間の接続を設定し、次のいずれかのモードを使用して手動またはさまざまな間隔でデータを同期できます。

- [ネットワーク同期 (Network Synchronization)] : このモードでは、オンデマンドまたは設定したスケジュールでデータが同期および更新されます。サテライトと Smart Manager の間の通信には、ポート 443 が使用されます。cisco.com に定期的に接続できる場合に、このモードを選択できます。この同期は、ネットワークに対応した環境に適しています。
- [手動同期 (Manual Synchronization)] : この同期モードでは、ファイルのダウンロードおよびアップロード プロセスによってデータが転送されます。ネットワーク接続を利用できない場合や Cisco Smart Software Manager と通信するための接続を確立できない場合は、このモードを選択します。このモードには、標準同期と完全同期の 2 つのオプションが用意されています。

[同期データのセキュリティ設定 (Synchronization Data Security Settings)]

このセクションには、製品インスタンスのデータ ファイルを Cisco Cloud Portal に転送する際に、次のセキュアなデータを除外するためのチェックボックスが用意されています。次の 1 つ以上の項目を指定できます。

- [ホスト名 (Hostnames)] : 登録済み製品インスタンスのホスト名。このチェックボックスをオンにすると、このデータが転送から除外されます。

- [IPアドレス (IP Addresses)]: 登録済み製品インスタンスの IP アドレス。このチェックボックスをオンにすると、このデータが転送から除外されます。
- [MACアドレス (MAC Addresses)]: 登録済み製品インスタンスの Media Access Control (MAC) アドレス。このチェックボックスをオンにすると、このデータが転送から除外されます。

[同期スケジュール (Synchronization Schedule)]

[同期スケジュール (Synchronization Schedule)] オプションは、ネットワーク同期を実行するように選択した場合のみ表示されます。このオプションを使用して、スケジュールを設定し、サテライトと Cisco SSM のデータを同期できます。頻度と時刻を選択して同期スケジュールを設定できます。

同期のスケジュール

特定の日時にサテライトを Cisco SSM と同期するようにスケジュール設定できます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、[同期 (Synchronization)] をクリックします。
[同期 (Synchronization)] ページには、セクションが [同期モード (Synchronization Mode)] と [同期データのセキュリティ設定 (Synchronization Data Security Settings)] の2 つの場合と、[ネットワーク同期 (Network Synchronization)] オプション ボタンを選択した場合は [同期スケジュール (Synchronization Schedule)] も含めて 3 つの場合があります。
2. [同期モード (Synchronization Mode)] セクションで、[ネットワーク同期 (Network Synchronization)] ラジオ ボタンをクリックします。
3. [同期スケジュール (Synchronization Schedule)] セクションで、次のオプションを使用して同期スケジュールを設定できます。

名前	説明
[頻度 (Frequency)] フィールド	データを同期および更新するスケジュールをドロップダウン リストから選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [毎日 (Daily)]: 毎日 1 回、指定した時刻に同期します。 • [毎週 (Weekly)]: 毎週 1 回、指定した曜日の指定した時刻に同期します。 • [毎月 (Monthly)]: 毎月 1 回、指定した日時に同期します。
[時刻 (Time)] フィールド	時刻 (時間と分) 。
[日付 (Date)] フィールド	[頻度 (Frequency)] フィールドで [毎週 (Weekly)] を選択した場合は曜日、[毎月 (Monthly)] を選択した場合は日付。

[手動同期 (Manual Synchronization)]

この手順の説明は、[手動同期 (Manual Synchronization)] モードを選択した場合に適用されます。[手動同期 (Manual Synchronization)] オプション ボタンをクリックした場合、このページの右上に [手動同期 (Manual Synchronization)] メニュー ボタンが表示されます。このボタンには、[標準同期 (Standard Synchronization)] と [完全同期 (Full Synchronization)] の 2 つのプルダウン オプションがあります。[標準同期 (Standard Synchronization)] を選択した場合、処理中に Cisco SSM で完全同期が必要になると、同期応答ファイルのダウンロード時に完全同期が必要なことを通知します。その時点で、サテライトに戻り、[完全同期 (Full Synchronization)] オプションをクリックして再実行します。

[標準同期 (Standard Synchronization)] または [完全同期 (Full Synchronization)] のダイアログボックスでは、以下の同じ手順を実行できます。

手順

1. [ダウンロード (Download)] ボタンをクリックして、サテライト データ ファイルをローカル ハード ディスクにダウンロードします。
 - a) データ ファイルが生成され、保存するローカル ファイル ディレクトリが開きます。
 - b) データ ファイルを保存する場所を選択します。
2. Cisco Smart Software Manager にログインし、[サテライト (Satellites)] タブをクリックします。
3. [サテライト (Satellites)] ページで、データ同期の対象となるサテライトを見つけるか、または [新しいサテライト (New Satellite)] をクリックして新しいサテライトを追加します。
4. 新しいサテライトを追加する場合、表示される画面で次のことを実行できます。
 - a) [サテライト名 (Satellite Name)] ボックスに新しいサテライトの名前を入力します。
 - b) [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックして、登録ファイルを選択します。
 - c) 既存のサテライトのリストから選択するか、または [新しいバーチャル アカウント (New Virtual Account)] を選択します。
 - d) 新しいバーチャル アカウントの場合は、バーチャル アカウントの名前を入力してから [追加 (Add)] をクリックします。
5. リストから既存のサテライトを選択する場合は、このページの [処理 (Actions)] 列でサテライトの [ファイル同期 (File Sync)] リンクをクリックします。
6. [サテライトの同期 (Synchronize Satellite)] ダイアログボックスで、[ファイルの選択 (Choose File)] をクリックし、サテライトで生成されたデータ ファイルをアップロードします。
7. [応答ファイルの生成 (Generate Response File)] をクリックして、データが同期された応答ファイルを生成します。
 - a) [同期応答ファイルの生成 (Synchronization Response File Generated)] ダイアログが表示されます。
 - b) [OK] をクリックして続行します。
8. [応答ファイルのダウンロード (Download Response File)] をクリックして、ローカル ハード ディスクにダウンロードします。
9. Cisco Smart Software Manager サテライト Classic にログインします。

10. [手動同期 (Manual Synchronization)] ダイアログボックスの下にある [アップロード (Upload)] をクリックして、応答ファイルをアップロードし、手動同期プロセスを完了します。

この手順が終了すると、サテライトに関連付けられたバーチャル アカウントのライセンスの使用権と使用状況が、Cisco SSM とサテライトで同じになります。

[レポート (Reports)] ペイン

[レポート (Reports)] ペインでは、バーチャル アカウントに対して複数のレポートを実行することができます。レポートのテーブルには、サポートされている各レポートの次の情報が表示されます。ライセンスまたは製品インスタンスのレポートを実行できます。

名前	説明
[名前 (Name)] エリア	Cisco Smart Software Manager サテライト Classic レポートの名前。このリンクをクリックして、特定のレポート ページを表示します。
[説明 (Description)] エリア	レポートの説明。

レポートの実行

手順

1. ナビゲーション ペインで、[レポート (Reports)] をクリックします。
2. [レポート (Reports)] ページで、実行するレポートを選択します。
3. [レポートの設定 (Report Settings)] ペインで、次の情報を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	レポートに割り当てる名前。
[説明 (Description)] フィールド	レポートの説明 (オプション)。
[バーチャル アカウント (Virtual Account)] ドロップダウン リスト	レポートを実行する 1 つ以上のバーチャル アカウントを選択します。すべてのバーチャル アカウントに対してレポートを実行するには、[すべてのバーチャル アカウント (All Virtual Accounts)] を選択します。 注：アクセス権があるバーチャル アカウントについてのみレポートを実行できます。
[製品タイプ (Product Type)] フィールド (製品インスタンスのレポートのみ)	レポートを実行する製品タイプ。1 つ以上の製品ファミリーを選択できます。

4. [アクション (Actions)] ペインで、アクションを選択します。次のいずれかになります。

- レポートの実行

- Excel にエクスポート
- CSV にエクスポート

[レポートの実行 (Run Report)] をクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウでレポートが開きます。[Excel にエクスポート (Export to Excel)] または [CSV にエクスポート (Export to CSV)] をクリックすると、[ファイルの保存 (File Save)] ダイアログボックスが表示されます。

[管理 (Administration)] ペイン

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic のライセンス管理者は、[管理 (Administration)] ペインを使用して次のことを実行できます。

- [ユーザ (Users)] タブで、新しいユーザを作成する、既存のユーザを削除する、ユーザ プロファイル データを表示する。
- [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブで、バックアップをスケジュールし、サテライトのバックアップと復元を実行する。
- [アップグレード (Upgrade)] タブで、サテライトを新しいバージョンにアップグレードする。
- [ネットワーク (Network)] タブで、ネットワーク インターフェイス、DNS、および NTP の設定変更、または ping、traceroute、ns lookup などの診断を実行する。
- [システム設定 (System Settings)] を使用して、サテライトの再起動とシャットダウン、ヘッダーとフッターのカスタマイズ、SSLv3 の設定を行う。
- [診断ログ (Diagnostic Logs)] タブで、ユーザ エクスペリエンスの診断ログを生成する (シスコのサポート チームがスマート ライセンスの利点を最適化するために使用) 。

[ユーザ (Users)] タブのテーブルには、次の情報とオプションが表示されます。

名前	説明
ユーザ名	ユーザの名前。リンクをクリックすると、ユーザの詳細な情報が表示されます。
名前	ユーザのフル ネーム。

名前	説明
アクション	ユーザをアプリケーションから完全に削除する場合は、[削除 (Delete)] をクリックします。 プロンプトで削除を確認します。

[管理 (Administration)] ペインには、新しい管理者シーケンスを作成するボタンや、データを CSV ファイルにエクスポートするボタンもあります。

新しい管理者の作成

新しいサテライト管理者 (サテライトの唯一のロール) を作成するには、次の手順に従います。これは、サテライト限定のローカルの処理で、Cisco Smart Software Manager のスマート アカウントには影響しません。

手順

1. ナビゲーション ペインで、[管理 (Administration)] をクリックします。
2. [管理 (Administration)] ページで、[新規管理者 (New Administrator)] をクリックします。
3. [新規管理者 (New Administrator)] ダイアログボックスで、次の情報を入力します。

名前	説明
[ユーザ名 (Username)] フィールド	ユーザに割り当てる名前または ID。ユーザ名は 4 文字以上の英数字で指定する必要があります。
[フルネーム (Full Name)] フィールド	ユーザの姓名。
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザのパスワードを入力します。パスワードは、数字、大文字、特殊文字を少なくとも 1 文字ずつ使用して、6 文字以上で指定する必要があります。
[パスワードの再入力 (Re-enter Password)] フィールド	パスワードを再入力します。
[初回ログイン時にパスワードの変更が必要 (User must change password at first login)] チェックボックス	ユーザに対して初回ログイン後にパスワードの変更を強制する場合にオンにします。

4. [OK] をクリックします。

バックアップと復元

バックアップと復元の機能により、Cisco Smart Software Manager サテライト Classic をバックアップし、後でサテライトを前の動作状態に復元することや、あるシステムのデータを新しいシステムに移行することができます。復元は、同じメジャー バージョンを使用して生成されたバックアップでのみ動作する点にご注意ください (例: 3.0.x から 3.1.0)。

バックアップと復元の機能は、[管理 (Administration)] ペインにあります。アクセスするには、[バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブをクリックします。

このページから次のアクションを実行できます。

- **すぐにバックアップを実行**

- [バックアップスケジュール (Backup Schedule)] の作成
- 復元する

オンデマンド バックアップおよびスケジュール バックアップの実行

オンデマンド バックアップ

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic では、オンデマンドのバックアップ操作とスケジュール バックアップの操作がサポートされています。また、バックアップの名前変更、ダウンロード、復元の操作によりバックアップ ファイルを管理することができます。

オンデマンド バックアップは、[バックアップを今すぐ実行 (Run Backup Now)] アイコンをクリックすることによりいつでも開始できます。このオプションを選択すると、バックアップ ファイルを作成するために必要な情報を収集するプロセスが開始されます。正常に完了すると、バックアップが成功したことを示すメッセージが表示されます。

失敗した場合は、失敗の性質と可能な修正処理を示す主要なアラートがサテライトに表示されます。[診断ログ (Diagnostic Logs)] タブに移動し、[ZIP ファイルの生成 (Generate Zip File)] をクリックします。障害解決のため、その .zip ファイルをチケットと共に Cisco に送信します。

サテライトがすでにバックアップを実行中に別のバックアップを試行すると、バックアップが進行中であるため、別のバックアップを開始するには現在実行中のバックアップが完了しなければならないことを通知するメッセージが管理者に対して表示されます。

スケジュール バックアップ

Cisco Smart Software Manager サテライト Classic では、バックアップ スケジュールを作成することにより全自動でバックアップを実行することができます。バックアップのスケジュールは、希望する頻度 (毎日または毎週) で設定できます。バックアップ時刻が指定されない場合はデフォルトで 23:00 (深夜の 1 時間前) になります。

ユーザがスケジュールを設定した後は、選択した間隔でサテライトにより自動的にバックアップが実行されます。バックアップ ファイルは、サテライトのローカルに作成、保存され、[バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブの [バックアップ ファイル (Backup Files)] セクション (降順表示) からアクセス可能です。

バックアップ スケジュールを作成するには、次の手順に従います。

手順

1. [定期バックアップのスケジュール (Schedule regular backups)] ボックスをオンにします。
2. プルダウン メニューから [頻度 (Frequency)] を選択します。
3. 時と分のメニューから [時刻 (Time)] を選択します。
4. [実行日 (Days to be run)] ボックスをクリックします。
5. [保存 (Save)] をクリックします。

バックアップ ファイルの管理

[管理 (Administration)] ペインの [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブの [バックアップファイル (Backup Files)] セクションの [アクション (Actions)] ドロップダウン メニューから該当するアクションを選択することにより、バックアップ ファイルの復元、ダウンロード、MD5 チェックサムを表示、名前変更、削除の操作を実行することができます。処理には、次のものがあります。

- [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] アクションでは、サテライトを以前の動作状態に戻すことができます。
- [ダウンロード (Download)] アクションでは、ブラウザを使用して、オフライン ストレージ用にバックアップ ファイルをサテライトからコピーすることができます。これを選択した場合、ブラウザにより宛先を入力するよう求めるプロンプトが表示され (オプション) 、その後、サテライトの内容がデバイスにダウンロードされます。
- [MD5チェックサムを表示 (Show MD5 Checksum)] アクションは、ダウンロード中にファイルが破損していないことを確認するために提供されています。MD5 チェックサムは、バックアップ実行時に計算されます。
- [名前変更 (Rename)] アクションでは、サテライトのバックアップ ファイルの名前を、デフォルト名または以前の名前とは別のものに変更することができます。新しいバックアップ ファイル名には最大 60 文字の制限があり、ファイル名に有効な文字は A-Z、a-z、0-10、_ です。
- [削除 (Delete)] アクションでは、作成されたバックアップ ファイルを、サテライトで提供されているリストから削除することができます。この操作では完全に削除され、バックアップ ファイルを復元することはできません。

バックアップの自動消去

サテライトでは、バックアップ ファイルを最大 20 個まで、またはバックアップ ファイル用に使用可能なディスク領域の 80% まで保存できます。バックアップ ファイルが 20 個のしきい値に達すると、最も古いバックアップ ファイルがサテライトにより自動的に削除されます。

また、90 日より古いバックアップ ファイルはすべて自動的に削除されます。これは、90 日より前に作成されたバックアップ ファイルを使用しようとする、証明書期限切れのためにサテライトが Cisco SSM での製品登録や同期を実行できなくなるためです。これらのバックアップ ファイルは使用できないため、メンテナンスを必要とせず、自動的に削除されます。

手順

1. [管理 (Administration)] ペインで、[バックアップ/復元 (Backup/Restore)] をクリックします。
2. [バックアップファイル (Backup Files)] パネルで [アクション (Actions)] ドロップダウン メニューをクリックして、[バックアップファイル (Backup Files)] 下で使用するファイル名を選択します。
3. 実行する処理をリストから選択します。
4. サテライト上のすべてのデータを、バックアップ ファイルに含まれるデータで置き換えるには、[復元 (Restore)] をクリックします。バックアップから復元するかどうかを確認するためのダイアログボックスが表示されます。
5. [バックアップから復元 (Restore from Backup)] をクリックすると、復元処理が開始します。
6. 復元を停止するには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
7. [復元進行中 (Restore In Progress)] メッセージにより、復元が進行中であること、また復元後にシステム リロードが自動的に実行されることが示されます。
8. ダウンロードするには、[ダウンロード (Download)] をクリックして処理を開始します。ダウンロードが開始されたことを示すダイアログボックスが表示されます。
9. 特定のファイルの MD5 チェックサムを表示するには、[MD5チェックサムを表示 (Show MD5 Checksum)] をクリックします。バックアップ ファイルの名前とチェックサムを示すダイアログボックスが表示されます。
10. [OK] をクリックして続行します。
11. バックアップ ファイルの**名前を変更する**には、[名前変更 (Rename)] をクリックします。
12. 表示されるダイアログボックスで、新しい**バックアップ名**を入力します。新しいファイル名は、バックアップ ファイルの命名規則に従ったものでなければならぬことに注意してください。
13. [保存 (Save)] をクリックして変更を保持するか、または [キャンセル (Cancel)] をクリックします。

14. 選択したバックアップ ファイルを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。
15. 表示されるダイアログボックスで [バックアップの削除 (Delete Backup)] をクリックして、削除を確認します。
16. 削除を中止する場合は、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

バックアップ ファイルの復元

復元アクションを使用して、サテライトを前の動作状態に戻したり、あるシステムのデータを新しいシステムに移行したりできます。復元操作では、サテライトの既存のローカル バックアップ ファイルを選択するか、以前にダウンロードしたバックアップ ファイルを選択する必要があります。復元すると、現在のサテライトは選択されたバックアップ ファイルに置き換わります。システムは、今すぐまたは後で同期するかの確認をして再起動します。

復元が失敗した場合は、失敗の理由を示す次のいずれかのメッセージがユーザに対して表示されます。

- バックアップが無効です (Backup File Not Valid) : 指定されたファイルが有効なサテライトバックアップファイルではありません。(The file you specified is not valid satellite backup file.) ファイルが破損しているか、.zip ファイルではありません。(The file might be corrupted or is not a .zip file.) これは、ファイルがダウンロード後に破損したか、変更されたことを意味します。サテライトからファイルを再度ダウンロードし、復元を再試行してください。
- バックアップバージョンが無効です (Backup Version Not Valid) : 指定されたバックアップファイルは古いバージョン<version-num>のサテライトで作成されたファイルであり、サテライトでは現在バージョン<version-num>が実行されています。(The backup file you specified is from an older version of the satellite, version<version-num>, and your satellite is currently running version <version-num>.) サテライトは、同じバージョンから取得されたバックアップでのみ復元できます。(You can only restore your satellite from a backup taken from the same version.) これは、バックアップ ファイルが新しいサテライト バージョンと互換性がない別のバージョンから作成されたことを意味します (たとえば、バックアップ ファイルがサテライト リリース 3.0.x で作成され、サテライト 3.1.0 で復元されました)。元のバージョンまたは互換性のあるバージョンのサテライトをインストールして、復元を再試行してください。
- バックアップからの復元に失敗しました (Restore from Backup Failed) : このSmart Software Managerサテライトをバックアップから復元しようとしている間にエラーが発生しました。(An error occurred while attempting to restore this Smart Software Manager satellite from a backup.) サテライトは復元する前の状態に戻りました。(The satellite has been reverted to its previous status prior to the restore.) これは、復元に失敗し、復元操作が開始される前の状態にサテライトが戻ったことを意味します。

ローカル バックアップ ファイルから復元するには、次の手順を実行します。

手順

1. [管理 (Administration)] ペインで、[バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブを選択します。
2. 表示されるリストから、目的のバックアップ .zip ファイルを選択します。
3. 復元するバックアップ ファイルを選択し、[アクション (Actions)] プルダウン メニューから [復元 (Restore)] アクションを選択します。

新しい Cisco Smart Software Manager サテライト Classic の復元

サテライトを再展開する必要がある場合は、以前に作成してダウンロードしたバックアップ ファイルから新しいサテライトを復元して設定できます。ダウンロードしたバックアップ ファイルは、同じホスト (バックアップ ファイルと同じ IP アドレス) または別のホスト (バックアップ ファイルとは異なる IP アドレス) に復元できます。

バックアップからサテライトを復元するには、次の手順を実行します。

手順

1. 『Cisco Smart Software Manager サテライト Classic インストレーション ガイド』に記載された手順を使用してサテライトをインストールします。
2. インストール プロセス中に、[新しいサテライトの設定 (Configure a new satellite)] または [サテライト バックアップ ファイルからのデータのインポートによる設定 (Configure by importing data from a satellite backup file)] のいずれかを選択する画面が表示されます。2 つ目のオプションでは、登録された製品インスタンスの設定を含む構成時の設定が復元されます。
3. [ファイルの選択 (Choose File)] オプションを使用して、以前にダウンロードしたバックアップ ファイルを選択します。
4. [復元 (Restore)] をクリックします。
5. (オプション) ファイルをキャンセルするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。

復元プロセス中は、サテライトで他の操作を実行できません。復元操作に成功すると、サテライトが再起動し、復元が進行中であることを示す次のメッセージが表示されます。

復元を行っています (Restore in Progress) : Smart Software Managerサテライトは、現在バックアップから復元されています。(The Smart Software satellite is currently being restored from a backup.) 登録された製品インスタンスの数によっては、このプロセスにしばらく時間がかかることがあります。(This process can take some time depending on the number of registered product instances.) このページは、プロセスが完了したときに再読み込みされます。(This page will reload when the process has completed.)

復元後、次の 3 つのオプションのいずれかを使用して同期を実行または保留するように求められます。

- [ネットワーク同期 (Network Synchronization)]
- [手動同期 (Manual Synchronization)]
- [後で同期 (Synchronize Later)]

サテライトと Cisco SSM との同期は運用上のさまざまな理由で保留される可能性があるため、サテライトでは強制的な自動同期は行われないことに注意してください。代わりに、サテライトを完全に運用可能な状態に戻すには同期を実行する必要がありますを示す次のメッセージが表示されます。

サテライトが同じ仮想マシンに復元された場合は、次のメッセージが表示されます。

Smart Software Manager サテライトがバックアップから正常に復元されました。(The Smart Software Manager satellite was successfully restored from backup.) 復元を完了するため、シスコのライセンス サーバと同期することをお勧めします。(To complete the restore, it is recommended that you synchronize with Cisco Licensing Servers.)

サテライトが別の仮想マシンに正常に復元された場合は、次のメッセージが表示されます。

Smart Software Manager サテライトがバックアップから正常に復元されました。(The Smart Software Manager satellite was successfully restored from backup.) 復元を完了するには、サテライトをシスコのライセンス サーバと同期する必要があります。(To complete the restore, it is required that the satellite synchronize with Cisco Licensing Servers.)

重要 : 元のバックアップの作成時に使用した仮想マシン以外の仮想マシンに復元したため、サテライトは同期が完了するまで新しい製品インスタンスを登録できません。(IMPORTANT: Because you have restored to a virtual machine other than the one used to create the original backup, the satellite will be unable to register new product instance until it has synchronized.)

同期を保留する場合の一般的な考慮事項は次のとおりです。

- 推奨：バックアップの生成時に使用したサテライトと同じサテライトから復元したときは、ライセンス情報が Cisco SSM と適切に同期されていることを確認する場合にのみ、同期が必要です。サテライトへの製品登録は、同期の前でも機能します。

必須：バックアップ ファイルの作成時に使用したサテライトとは異なるサテライトに復元する場合は、適切な動作を保証するために同期が必要です。同期が完了するまでは、製品登録操作に失敗することがあります。[後で同期 (Synchronize Later)] を選択すると、サテライトに最新のライセンス情報を取り込んで通常の動作を再開できる状態にするために同期する必要があることを示すアラート メッセージがメイン画面に表示されます。

ネットワーク構成

[管理 (Administration)] ペインの [ネットワーク (Network)] タブに、GUI を使用して設定とトラブルシューティングを実行するためのツールが用意されています。

サテライトは複数のインターフェイスをサポートしており、サテライトの管理と製品登録とでトラフィックを分離することができます。

- [管理ネットワークインターフェイス (Administration Network Interface)] は、クライアントがサテライトに接続するために使用されます。
- [製品登録インターフェイス (Product Registration Interface)] は、Cisco SSM にサテライトを登録し同期するために使用できます。
- それぞれのネットワーク インターフェイス カード (NIC) に、IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイを個別に設定できます。

[ネットワーク (Network)] タブには、サテライト インターフェイスの現在の設定が次のように表示されます。

Administration Network Interface - eth0 および **Product Registration Interface - eth1**

[DNS設定 (DNS Settings)] には、現在の DNS サーバの IP アドレスと、関連付けられた検索ドメインが表示されます。

[NTP設定 (NTP Settings)] には、サテライトの現在時刻、タイム サーバ名、および [今すぐ時刻を同期 (Sync Time Now)] のオプションが表示されます。

[ネットワーク設定の編集 (Edit Network Settings)] を選択するとダイアログボックスが表示され、ネットワーク インターフェイス、DNS、および NTP の設定を変更できます。

[ネットワーク診断を開始 (Launch Network Diagnostics)] を選択するとダイアログボックスが表示され、ping、ping6、トレースルート、および ns ルックアップを実行できます。

ネットワーク設定の編集

IP アドレスを変更すると、以下の一連の処理が必要になる場合があります。

- 各登録済み製品インスタンスにおいて、サテライトとの通信を継続させるために Smart Call Home 転送 URL の更新が必要になる場合があります。
- この管理インターフェイスにアクセスするための URL を変更します。
- 変更を完了するには、サテライトを同期する必要があります。

- [ネットワーク アドレス変更の確認 (Confirm Network Address Change)] で、[続行 (Continue)] か [キャンセル (Cancel)] を選択するよう促されます。[続行 (Continue)] をクリックした場合、変更が実行され、[管理インターフェイス URL が変更されました (Administration Interface URL Changed)] のメッセージを含むページが表示されます。この時点で新しい URL が提供されます。すべてのブックマークをその新しい URL で更新してください。
- 新しい URL に移動してサテライトにログインすると、[IP アドレスの変更を完了するには同期が必要 (Synchronize Needed to Complete IP Address Change)] のアラート メッセージが、同期を完了するまで表示されます。
- 同期が完了すると、[登録製品インスタンス上の転送設定を確認 (Verify Transport Settings on Registered Product Instances)] のアラートが表示されます。この Smart Software Manager サテライトのネットワーク アドレスが変更されています。必要に応じて、登録済み製品インスタンス上に設定されている Smart Call Home 転送 URL を更新して、サテライトと通信できるようにします。

手順

1. [管理 (Administration)] ペインで [ネットワーク (Network)] タブをクリックし、下端までスクロールします。
2. [ネットワーク設定を編集 (Edit Network Settings)] をクリックします。
3. [ネットワーク インターフェイス (Network Interfaces)] タブで [管理ネットワーク インターフェイスのステータス (Administration Network Interface Status)] ドロップダウン メニューは無効になり、[有効 (Enabled)] のみが表示されます。ドロップダウン メニューの下に [ハードウェア アドレス (Hardware Address)] が表示されます。ドロップダウン メニューの下に [ハードウェア アドレス (Hardware Address)] が表示されます。
4. [IPv4/IPv6 (IPv4/IPv6)] の下で、[管理ネットワーク インターフェイス - eth0 (Administration Network Interface - eth0)] の [設定 (Configuration)] ドロップダウン メニューは無効になっており、[手動 (Manual)] のみが表示されます。[製品登録インターフェイス - eth1 (Product Registration Interface - eth1)] に対しては [IPv4/IPv6 設定 (IPv4/IPv6 Configuration)] ドロップダウン メニューが使用可能で、[DCHP、手動 (DCHP, Manual)] または [未設定 (Not Configured)] が表示されます。
5. IP アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイの情報を入力します。
6. (オプション) ドメイン ネーム サーバの設定を変更するには、[DNS] タブをクリックし、DNS サーバと検索ドメインを入力します。
7. (オプション) NTP サーバ設定を変更するには、[NTP] タブをクリックし、NTP サーバ アドレスを入力します。
8. [今すぐ時刻を同期 (Sync Time Now)] のリンクを使用すると、サテライト サーバ時刻が、選択された NTP サーバとすぐに同期されます。
9. [OK] をクリックします。

ネットワーク診断の起動

手順

1. [管理 (Administration)] ペインで [ネットワーク (Network)] タブをクリックし、下端までスクロールします。
2. [ネットワーク診断の起動 (Launch Network Diagnostics)] をクリックします。
3. [ホスト名 (Hostname)] または [IP アドレス (IP Address)] を入力します。
4. [Ping/Traceroute (Ping/Traceroute)] または [Ping6/Traceroute6 (Ping6/Traceroute6)] をクリックします。結果がボックスに表示されます。
5. [名前空間のルックアップ (Namespace Lookup)] をクリックします。結果がボックスに表示されます。

6. [出力をクリア (Clear Output)] をクリックして、出力ボックスをクリアします。そうしない場合、複数の Ping/Ping6、 Traceroute/Traceroute6 および名前空間ルックアップの結果が出力ボックスの末尾に追加されます。
7. 現在の検索をキャンセルするには、[キャンセル (Cancel)] を使用します。

システム設定

[管理 (Administration)] の [システム設定 (System Settings)] タブでは、サテライトの再起動/シャットダウン、フッターやヘッダーの設定、SSLv3 互換性のパラメータの編集が行えます。

サテライトの再起動/シャットダウン

[管理 (Administration)] ペインの [システム設定 (System Setting)] タブでは、サテライトの [再起動 (Restart)] または [シャットダウン (Shutdown)] ボタンを使用して GUI からグレースフル リスタートまたはシャットダウンを実行できます。

手順

1. 再起動するには、[再起動 (Restart)] ボタンをクリックします。
続行すると、サテライトが再起動されます。再起動中 (数分かかる場合があります) は、サテライトから製品インスタンスに到達できず、管理インターフェイスを使用できません。
 - a) 再起動を確認するよう求める [再起動の確認 (Confirm Restart)] ダイアログボックスが表示されます。
 - b) 再起動の理由 (オプション) を入力すると、ログに記録されます。
 - c) [再起動 (Restart)] をクリックしてプロセスを続行するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックして中止します。
2. サテライトをシャットダウンするには、[シャットダウン (Shutdown)] をクリックします。
続行すると、サテライトがシャットダウンされます。シャットダウンの完了後は、サテライトから製品インスタンスに到達できず、管理インターフェイスを使用できません。
 - a) シャットダウンを確認するよう求める [シャットダウンの確認 (Confirm Shutdown)] ダイアログボックスが表示されます。
 - b) シャットダウンの理由を入力すると、ログに記録されます。
 - c) [シャットダウン (Shutdown)] をクリックして続行するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックして中止します。

ヘッダーとフッターの設定

カスタム ヘッダーとカスタム フッターは、ユーザ設定可能であり、ユーザが連邦のセキュリティ分類に従うことができるようになっています。入力するテキストは、サテライトのログイン ページ、すべてのアプリケーション ページ、およびサテライトによって生成されるレポートの上部と下部に表示されます。これらのヘッダーとフッターにより、分類マーキングやその他の意味のある標示が提供されます。

手順

1. [管理 (Administration)] ペインで、[システム設定 (System Settings)] をクリックします。

2. [カスタム ヘッダー/フッター (Custom Headers/Footers)] パネルで、[カスタム ヘッダーおよびフッターを表示する (Display custom headers and footers)] チェックボックスをオンにします。
3. [テキスト (Text)] フィールドに、ヘッダーとフッターのテキストを入力します。テキストのプレビューが [プレビュー (Preview)] 領域に表示されます。
4. [テキストのサイズ (Text Size)] ドロップダウン メニューで、使用するフォント サイズを選択します。
5. [色 (Color)] ドロップダウン メニューで、ヘッダーとフッターに使用する色を選択します。
6. [保存 (Save)] をクリックします。
7. カスタム ヘッダーおよびフッターを無効にするには、次の手順を実行します。
 - a) [カスタム ヘッダー/フッター (Custom Headers/Footers)] の下にある [カスタム ヘッダーおよびフッターを表示する (Display custom headers and footers)] チェックボックスをオフにします。
 - b) [保存 (Save)] をクリックします。
 - c) ブラウザを更新します。

今日のメッセージの設定

ユーザが CentOS システム コンソールにログインした時に表示される「今日のメッセージ」をカスタマイズできます。ボックスにテキストを入力し、[今日のカスタムメッセージを表示 (Display custom message of the day)] アイコンをクリックします。このメッセージは、ログオン プロンプトで CentOS によりコンソールに表示されるデフォルトの今日のメッセージを上書きします。

SSLv3 の設定

このタブでは、特定の製品との後方互換性を保つために、SSL (セキュア ソケット レイヤ) v3 を有効にすることができます。デフォルトのサテライトは TLS (Transport Layer Security) であるため、古いスマート エージェント イメージを使用したデバイスが SSLv3 でハンドシェイクを試行すると失敗します。これは、そのような古い製品で引き続き SSLv3 を使用してサテライトと通信できるようにするためのオプションです。

手順

1. [管理 (Administration)] ペインで、[システム設定 (System Settings)] をクリックします。
2. [SSLv3 互換性 (SSLv3 Compatibility)] セクションで、[SSLv3 を有効にする (Enable SSLv3)] チェックボックスを必要に応じて設定します。
3. [保存 (Save)] をクリックします。

診断ログ

[管理 (Administration)] ペインの [診断ログ (Diagnostic Logs)] タブから、シスコ サポートに送信する診断ログ ファイルを含む ZIP ファイルを生成できます。

診断ログ ファイルの生成

シスコのサポートで使用する診断ログを生成するには、次の手順を実行します。

手順

1. ナビゲーション ペインで、[管理 (Administration)] をクリックします。

2. [管理 (Administration)] ペインで、[診断ログ (Diagnostic Logs)] をクリックします。
3. ログ ファイルの日付範囲を指定します。
 - ドロップダウン メニューから、事前に設定された日付範囲を選択します。
 - [Date Range (日付範囲)] を選択し、表示されたウィンドウでデータ サンプルの開始日と終了日を入力します。
4. [Zip ファイルの生成 (Generate Zip File)] をクリックして、診断ログをコンピュータのデスクトップにダウンロードします。

このレポートを電子メールに添付してシスコのサポートに送ります。

自動ソフトウェア配信によるサテライトのアップグレード

各パッチ/アップグレード手順は異なるため、特定のサテライト リリースのインストールに関する注意事項を参照してください。

サテライトでは、自動ソフトウェア配布 (ASD) と呼ばれるアップグレード機能を利用できます。ASD を使用して、ソフトウェアのアップグレードが入手可能かどうかを確認できます。ASD には、アップグレード パッチを自動的にダウンロードしてインストールするオプションもあります。ASD を使用するには、サテライトから cisco.com に接続してアップグレード プロセスを完了する必要があります。

ASD を使用すると、cisco.com からアップグレードをダウンロードする際に必要なエンド ユーザ ライセンス (EULA) への同意手順もスキップできます。EULA に従う必要があることを通知するメッセージだけが表示されます。

注: ASD によるサテライトのアップグレードは、メジャー バージョン間では実行されません。

ネットワーク アップグレードに進むには、4 ページの「[ネットワーク アップグレードの使用](#)」を参照してください。

ネットワーク アップグレードの使用

注: この機能は 2017 年 6 月から廃止されています。

パッチが利用可能な場合は、次の手順を使用します。

手順

1. Cisco Smart Software Manager サテライト Classic にログインし、[管理 (Administration)] ボタンをクリックします。
2. [アップグレード (Upgrade)] タブをクリックします。
3. [ネットワーク アップグレード (Network Upgrade)] の下にある [アップグレードを確認 (Check for Upgrade Now)] をクリックします。
 - Cisco Smart Software Manager サテライト Classic が最新のバージョンの場合は、新しいバージョンがないことを示すメッセージが表示されます。
 - 新しいバージョンを利用できる場合は、そのバージョン番号が表示され、[リリース ノートを表示 (View Release Notes)] をクリックしてその更新プログラムの情報を確認できます。
4. [アップグレードを開始 (Upgrade Now)] をクリックします。

パッチがダウンロードされ、アップグレードが開始されます。

 - パッチ ファイルのサイズやインターネット接続の速度によっては、ダウンロードが完了するまでに最長で 10 分程度かかることがあります。

- ダウンロードの進捗状況が表示され、完了するとアップグレード ステータスが通知されます。
- アップグレード プロセスが完了すると、サテライトが自動的に再起動されます。アップグレードに失敗した場合は、[エラー ログの表示 (View Error Logs)] をクリックして詳細を確認できます。

注：アップグレードを取り消す場合は、[取り消し (Cancel)] をクリックします。ただし、取り消しができるのはダウンロード プロセスの間だけです。アップグレードの開始後はプロセスを中止できません。

5. アップグレード プロセスが完了したら、手順 1 ~ 3 に従って、最新バージョンがインストールされていることを確認します。

ネットワーク アップグレードのスケジューリング

注：この機能は 2017 年 6 月から廃止されています。

パッチが利用可能で、ネットワーク アップグレードのスケジュール機能を使用する場合、以下について選択します。

- Cisco Smart Software Manager サテライト Classic による更新の確認頻度
- 新しいバージョンが利用できるようになったときの Cisco Smart Software Manager サテライト Classic によるアクション

ネットワーク アップデートをスケジュールして設定するには、次の手順に従います。

手順

1. Cisco Smart Software Manager サテライト Classic にログインし、[管理 (Administration)] ボタンをクリックします。
2. [アップグレード (Upgrade)] タブをクリックします。
3. [利用可能なアップグレードを自動で確認する (Automatically check for available upgrades)] オプションをクリックします。
4. 頻度、時刻、および曜日のドロップダウン メニューを使用して、Cisco Smart Software Manager サテライト Classic でアップデートを確認するスケジュールと頻度を設定します。
5. [アップグレードが利用可能な場合 (If Upgrade Available)] ドロップダウン メニューをクリックして、インストール方法を選択します。
 - [アラート メッセージを表示する (Display Alert Message)]：無視するかネットワーク アップグレードを実行するかを選択できるアラート メッセージが表示されます。手動アップグレード プロセスの使用については、44 ページの「[ネットワーク アップグレードの使用](#)」を参照してください。
 - [アラートを表示し、アップグレードをダウンロードする (Display Alert and Download Upgrade)]：パッチ ファイルが自動的にダウンロードされ、完了後にアラートが表示されます。このアラートは無視することも可能で、必要なときにアップグレードを実行できます。アップグレードする準備ができたなら、44 ページの「[ネットワーク アップグレードの使用](#)」の手順に従ってアップグレードを実行します。アップグレードを開始するには、[アップグレードを開始 (Upgrade Now)] をクリックします。
 - [アラートを表示し、ダウンロードしてアップグレードする (Display Alert, Download, and Upgrade)]：新しいアップグレードが自動的にダウンロードされてインストールされます。アップグレードが完了するとメッセージ

が表示されます。アップグレードに失敗した場合は、[エラーログの表示 (View Error Logs)] をクリックして原因を確認できます。

注：いずれのインストール方法を選択した場合も、アラート メッセージからリリース ノートへのリンクを利用できません。

6. [保存 (Save)] をクリックして変更を保存します。

注：毎月のスケジュールで 29 日以降の日付を選択した場合、その日付がない月については、スケジュールされたアクションが翌月に持ち越されます。

手動アップグレードの使用

手動アップグレードは、ASD 機能のオプションではありませんが、ユーザ インターフェイスに ASD のオプションと一緒に表示されています。手動アップグレードでは、cisco.com で利用可能なサテライトのパッチのダウンロードを確認した後、手動でアップグレードを開始する必要があります。

手順

1. [手動アップグレード (Manual Upgrade)] の見出しの下にある [利用可能なダウンロードを確認 (View Available Downloads)] をクリックします。cisco.com に接続され、サテライトの最新リリースのダウンロード ページが表示されます。
2. cisco.com からパッチ ファイルを直接ダウンロードします。
3. [Choose File (ファイルの選択)] をクリックし、前の手順で PC にダウンロードしたパッチ ファイルを選択します。
4. [アップロード (Upload)] をクリックし、ファイルをサテライトにアップロードします。
5. [アップグレードを開始 (Upgrade Now)] をクリックし、アップグレード プロセスを完了します。

アップグレードが完了すると、サテライトのログイン ページが表示されます。

サテライトのアップグレード手順は、リリースごとに異なります。扱うバージョンまたはリリースのインストールに関する注意事項を参照してください。

デバイス先駆型ライセンス変換機能サポート

現在 SWIFT によるクラシック ライセンス メカニズムを利用している製品は、スマート ライセンスに移行するにあたり技術的な変更が行われ、イメージと機能を有効にする方法が異なります。スマート ライセンスでは、操作をより簡単にするために、PAK、RTU、およびライセンス ファイルが、エンタイトルメントまたはライセンスに置き換えられました。デバイスまたは製品インスタンスは、イメージまたは機能を有効にするためにデバイス上のファイルまたはキーを探すのではなく、イメージまたは機能が有効にしようとしているエンタイトルメント タグに対応するエンタイトルメントまたはライセンスのために、単純にライセンスの使用状況を Cisco Smart Software Manager (CSSM) または Smart Software Manager サテライト Classic にレポートします。

クラシック ライセンスを使用しているバージョンから、スマート ライセンスを使用している次のバージョンに製品をアップグレードする場合、そのデバイスまたは製品インスタンスには、以前のライセンス キーまたはファイルではなく、CSSM で利用できるエンタイトルメントが必要になります。CSSM でエンタイトルメントを利用可能にするにはさまざまな方法があります。

1. お客様がスマート対応 SKU を注文することで、CSSM にエンタイトルメント（ライセンス）が配信されます。
2. ライセンス登録ポータル（LRP）または CSSM を使用して、お客様が既存のクラシック ライセンスを SWIFT から CSSM に移行します。

それでも、エンタイトルメントを CSSM で利用できるようにする上の方法では、クラシック ライセンスからスマート ライセンスへのすべての変換に対処することはできません。多くのクラシック ライセンスは RTU を使用していて、これは LRP または CSSM ポータルで行われる変換のための SWIFT データベースにないためです。購入/エンタイトルメントの唯一の記録は、デバイス自体にあります。

そのため、デバイス/製品インスタンスからのみ開始できる、既存のクラシック ライセンスおよびエンタイトルメントをスマート ライセンスのエンタイトルメントに変換するメカニズムが必要です。クラシック ライセンスからスマート ライセンスへの変換を、デバイス先駆型ライセンス変換機能（DLC）により、デバイス/製品インスタンスから開始することで、CSSM にエンタイトルメントを反映することができます。この機能を動作させるには、製品を DLC 対応バージョンにアップグレードし、DLC 対応 CSSM またはサテライトに接続する必要があります。

成功の場合、DLC は 1 度だけ利用されたこととなります。すなわち、ライセンスが変換され、（デバイスを登録する）バーチャル アカウントにスマート対応ライセンスとして保存されると、CSSM によりバックエンド データベースからの通信が無効とされ、デバイスが再度変換を開始することはできなくなります。変換を開始しようとする、デバイスは「ライセンス変換済み（License Already Converted）」ステータスを受信します。デバイス自体が再起動から登録まで、変換のステータスを記憶していて、自動変換を 1 回のみ行います。

DLC は、CSSM またはサテライトに接続されたデバイスによって開始されます。スマート アカウント管理者は、デバイスからの変換要求の前に、ライセンス変換を許可または禁止するバーチャル アカウントを設定する必要があります。CSSM で、次の手順を使用します。

1. [ライセンス変換（License Conversion）]、[変換の設定（Conversion Settings）] タブに移動します。
2. すべてのバーチャル アカウントまたは一部のバーチャル アカウントで DLC を有効にするか、もしくはすべてのバーチャル アカウントで無効にするかのいずれかをラジオ ボタンより選択します。
3. [保存（Save）] を押します。
4. 無効にすると、ユーザにエラー メッセージが表示されます。
5. デフォルトは「有効」です。

変換のワークフロー

サテライトに登録されたデバイスの場合のワークフロー（ハイレベル）を次に示します。

1. 登録が成功した後に、自動または手動でデバイスが移行を開始します。
 - a. `license smart conversion automatic` コマンドにより、登録の一環として、自動的に移行が開始されます。または、
 - b. デバイスで「`license smart conversion start`」コマンドを手動で入力して変換を開始する必要があります。
2. サテライトは、1 台または複数のデバイスから、1 つまたは複数の移行要求を受け取り、登録済みデバイスからの要求を検証します。
3. サテライトは、DLC 要求のためにユーザが同期を開始する必要があることを示すアラートを表示します。
4. サテライトがデバイスに回答し、1 時間（3600 秒）後に再度ポーリングするように指示します。

-
5. 次の同期時に CSSM に送信できるように、サテライトは変換データを保存します。
 6. サテライトは、次の（ネットワーク、スケジュール、または手動）同期でエンコードされた変換データを CSSM に渡します。
 7. サテライトは、次の同期による CSSM からの応答（成功か失敗か、および失敗の場合の理由）を待機します。
 8. デバイスがステータス確認のためにサテライトをポーリングすると、適切な応答（poll-me-later、agent-not-registered、migrate-success、migrate-failed、invalid message type）が返されます。
 9. サテライトはデバイスの変換結果を追跡し、ユーザが DLC の要求/結果のステータスを把握できるように、UI 上にレポートを提供します。

変換レポート

変換のレポートを表示するには、次の手順を使用します。

手順 1：[管理 (Administration)] タブに移動します。

手順 2：[変換の履歴 (Conversion History)] を選択します。

手順 3：製品インスタンス名、製品ファミリ、変換ステータス、および変換時間を示すレポートを確認できます。

ステータスが変更されると（保留中から成功または失敗への変更など）、レポートが更新されます。

バックアップ/復元と変換の結果

1. 変換要求がデバイスによって開始され、デバイスのライセンス変換データがサテライトに送信された場合。ただし、サテライトがこの情報を受信する前の時間へのサテライト データベースの復元をユーザが実行します。デバイスがステータスのポーリングを再度試みると、復元操作によりサテライトにはライセンス変換の情報がないため、サテライトはエラーを返します。デバイスは自動的に変換を再試行します。
2. デバイスが変換を開始し、（結果が返される前に、登録解除またはサテライト データベースの復元操作の直接の結果として）登録済み状態でなくなった場合。サテライトがいつの状態に復元されたかに応じて、次のようになります。
 - a. サテライトが DLC 要求の前に復元された場合は、この要求の情報がないため、デバイスは DLC 要求を再試行する必要があります。
 - b. サテライトがデバイスの登録前に復元された場合は、デバイスの情報がないため、デバイスは再登録して DLC 要求を再試行する必要があります。
3. デバイスが変換を開始し、サテライトが変換データを CSSM に送信して、変換の成功結果を受信し、デバイスに通知します。同期が開始される前で、サテライトがデバイスから変換データを受信した後の時点にサテライトが復元された場合は、要求が保留中であると見なされます。サテライトは次の CSSM との同期で DLC 要求とライセンス データを送信し、「変換済み (ALREADY CONVERTED)」を受信すると、それに応じて UI レポートを更新します。デバイスはすでに正常なステータスを受信しているため、何もする必要はありません。

後方互換性

サテライトは、製品インスタンスからの登録を受け付ける前に、CSSM に登録する必要があります。以前は、サテライトから CSSM への証明書署名要求 (CSR) に担当者が手動で署名する必要があったことから、サテライトから CSSM への登録には 48 時間の待機が必要でした。つまり、サテライトに接続する必要がある製品は、サテライトが完全に登録され、機能できるようになるまで 48 時間待機する必要がありました。

1 年以上前に、CSR への手動による署名が自動化され、サテライトから CSSM への CSR は即座に署名されるようになってきました。ただし、この信頼チェーンが自動的に機能するように、製品のスマート エージェント、サテライト、および CSSM に変更を行う必要があります。以前の信頼チェーンは、デバイス - サテライト - CSSM の 3 つのレベルの証明書 (すなわち 3 層) で構成されていました。信頼チェーン検証を自動化する新しい実装では、証明書が追加され、4 レベルの証明書 (すなわち 4 層) で構成されています。アップデートされたレベルのスマート エージェント、サテライトおよび CSSM コードが含まれていない旧式のデバイスが継続して機能するように、これらの変更には後方互換性を持たせる必要もあります。

新しい実装では、3 層または 4 層のどちらの証明書をサポートしているかどうかを把握するために、スマート エージェント、サテライトおよび CSSM は新しいメッセージ タイプを交換する必要があります。最新のスマート エージェント コード (1.4 以降) が実装されていない製品をサテライトへ登録する必要がある場合、サテライトは、製品を登録する前に CSSM から 3 層の証明書を取得する必要があるため、48 時間待機する必要があります。製品チームは独自のスケジュールでスマート エージェント コード 1.4 以降を実装することができるため、スマート エージェントのどのバージョンが組み込まれているかは、常に把握されているわけではありません。この記事の執筆時点で、3 層の製品は ASAv、FMC、vCUSP、CBR8、5921 です。スマート エージェントのバージョン確認には、「`license smart status`」コマンドを発行します。

次のようなケースがあります。

新しいスマート エージェントを搭載したデバイスを最新リリースのサテライトに登録する

最新のスマート エージェント コードを実装したデバイスは、多層型証明書階層を使用して最新のサテライトに登録できます。

新しいスマート エージェントを搭載したデバイスを下位のサテライトに登録する

最新のスマート エージェント コードを実装したデバイスでは、証明書チェーン（デバイスからサテライト、Cisco Admin まで）が動的に検証されます。

古いスマート エージェントを搭載したデバイスを最新リリースのサテライトに登録する

最新リリースのサテライトをインストールすると、即座に Cisco Smart Software Manager への登録が開始されます。このプロセスで、サテライトは以前の 3 層の証明書も要求します。古いスマート エージェントを搭載したデバイスをサテライトに登録すると、2 営業日（48 時間）後にネットワーク同期または手動同期を実行し、後方互換性がある（3 層）証明書を取得してから登録し直す必要があることを知らせる、登録失敗のメッセージを受け取ります。この手順に従うと、これらのデバイスをサテライトに正常に登録できます。

この場合、デバイスとサテライトの通信には HTTPS が使用されます。手順は次のとおりです。

- Smart Call Home プロファイルで、トランスポートとして HTTPS を使用します。
- サテライト（マルチレベルの証明書階層機能に対応）が CSSM に正常に登録された後、サテライトへの製品インスタンス（下位のスマート エージェント）の登録が試行され、次のエラー メッセージが表示されて失敗します。

```
Compatibility Error: The satellite is not currently compatible with the Smart Licensing Agent version on this product. If it has been 48 hours since the satellite was registered, synchronize the satellite with Cisco's licensing servers to enable compatibility with older agent versions and then try the registration again.
```

- ユーザは 2 営業日待ちます。
- サテライトと Cisco SSM のオンデマンドのネットワーク同期または手動同期を実行します。
- 製品インスタンスをサテライトにもう一度登録します。

3.1.x のサテライトを新規にインストールした場合は、登録が完了してログインしたときに次のメッセージが表示されます。

```
Version Compatibility Note - Temporarily, this satellite will only be able to register Product Instances that are using the Smart Licensing Agent version 1.5 or later (use the "show license" commands on the Product Instance to see the agent version). To enable registration of Product Instances using older versions of the agent, wait two business days after the satellite's initial registration and then synchronize the satellite.
```

これは、2 営業日後に同期を実行すると、Cisco SSM から 3 層の証明書をサテライトが取得し、3 層のスマート エージェントがサポートされるようになることを意味します。

サテライトの使用量課金のサポート

概要

[データのレポートおよび収集](#)

[ユーティリティのエンド ツー エンドのワークフロー](#)

[ユーティリティ対応サテライトの同期方法の変更](#)

[スマート エージェントからの承認更新](#)

[ユーティリティ モードでのサテライトの UI とライセンス レポート](#)

[ユーティリティのためのスマート エージェントの運用変更](#)

[ユーティリティ対応 Smart Software Manager サテライト Classic への移行](#)

概要

シスコのマネージド サービス ライセンス契約 (MSLA) プログラムは、マネージド ソフトウェア サービスをサードパーティに提供するシスコのお客様およびパートナー向けに設計された、ソフトウェアのライセンスおよび消費のフレームワークです。サービス プロバイダー (SP) のお客様にソフトウェアを購入するための簡単な方法を提供し、エンドカスタマーにサービス ソリューションの一部として提供することができます。MSLA は、従量制の消費モデルでシスコソフトウェアに投資するための OpEx 戦略を SP に提供します。

MSLA 契約には、最初の 3 年の期間があります。この契約は、新しい 3 年の期間が交渉されない限り、1 年の期間で自動的に更新されます。MSLA の特徴は次のとおりです。

- MSLA に基づいて製品化された特定のソフトウェア製品およびソリューション
- MSLA 期間での固定価格制
- 24 時間年中無休の Cisco TAC へのアクセス、メンテナンスおよびマイナー アップデート、メジャー アップグレード、および Cisco オンライン サポート ナレッジベースによるシスコ ソフトウェアのサポート
- スマート ユーティリティによるビジネスのしやすさ : 0 ドルの注文書だけで開始可能
- ライセンスの使用量の可視性と管理のための [スマート アカウント](#)
- エンド カスタマーにサービスを提供するために必要な数のライセンスを導入できる機能 (追加の書類や取引は不要)
- SP のエンド カスタマー間でライセンスを再利用および再導入する機能
- SP がポストペイド請求用に月次使用状況レポートを生成

サービス プロバイダーのアカウント チームが、お客様が MSLA に署名したソフトウェア ユーティリティの PID (またはサブスクリプション ID) を含む、0 ドルの発注書を送信します。次に、そのサブスクリプションでの毎月の使用

SKU を選択します。

現在、MSLA で利用可能な製品の価格は、ライセンスに結びついています。これが毎月の利用料です。特定の製品の毎月の請求額は、次のようになります。

$$(1 \text{ ライセンスあたりの月額}) \times (\text{その月に使用されたライセンスの数})$$

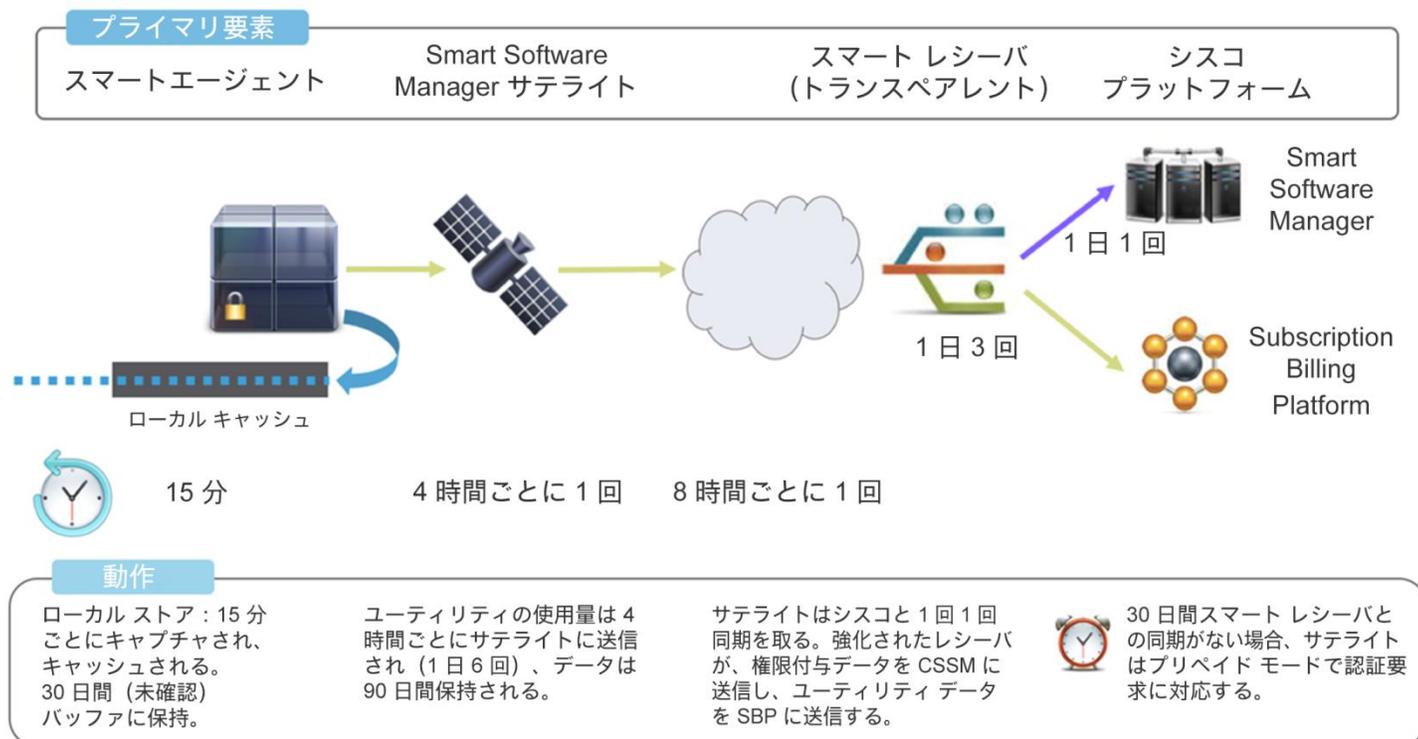
サブスクリプション ID とライセンスのエントラメントは、SP のスマート アカウントに保存されます。使用量情報を送信するために、デバイスはオンプレミスの Smart Software Manager サテライト Classic に接続し、ユーティリティモードを有効にする必要があります。CSSM に直接接続しているデバイスはユーティリティ モードを有効にできず、CSSM によりプリペイドとして扱われます。すなわち、CSSM は現在、直接接続された製品インスタンスの使用量課金をサポートしていません。

サテライトは製品からの測定値を受信し、シスコのバックエンド (CSSM およびスマート レシーバ) と定期的に同期して、エントラメントの詳細を交換し、評価および課金のためにソフトウェア課金プラットフォーム (SBP) に使用量情報を中継します。

このドキュメントでは、MSLA、ユーティリティまたはポストペイドの用語は同じ意味で使用されています。

データのレポートおよび収集

次の図は、デバイスからシスコへのデータのキャプチャおよび収集のワークフローを示しています。



- 製品はエンタイトルメント タグとそのエンタイトルメントの使用回数をレポートします。エンタイトルメントが使用されるたびに、その期間中の使用時間にかかわらずレポートされます。
- 製品は 15 分ごとに測定値を収集します。（使用中の最大数）。
- 製品は 4 時間ごとに（1 日 6 回）サテライトにレポートします。
- サテライトは 8 時間に 1 回（1 日 3 回）スマート レシーバに集約データをレポートします。
- データは製品上で最大 30 日間保持されるため、通信障害が発生した場合や、復元のためにサテライトがデータを失った場合に再送信することができます。
- CSV 形式へのエクスポート用に、データはサテライトに 90 日間保存されます。エクスポート プロセス中にストレージが使用されるため、raw RUM データのエクスポートではチャンクが小さくなる可能性があることに注意してください。

ユーティリティのエンド ツー エンドのワークフロー

ユーティリティベース（ポストペイド）ライセンス用のハイレベルなエンド ツー エンドのワークフローの概要を次に示します。

1. お客様が CCW で MSLA サブスクリプションとユーティリティ ライセンスを購入します。
2. ユーティリティ ライセンスは CSSM 上のそれぞれのお客様のスマート アカウントに保存されます。
3. サテライトを CSSM に登録および同期し、課金タイプが使用量のエンタイトルメントが含まれるようにします。
4. スマート エージェントは、CLI を使用してスマート ライセンスとユーティリティを有効にします。
5. スマート エージェントをサテライトに登録します。
6. スマート エージェントは承認要求を介してライセンスを要求します。
7. サテライトはそのライセンスがユーティリティ モードで利用できる（サブスクリプション ID および課金タイプが使用量）か確認します。
8. ユーティリティ ライセンスが利用できる場合、サテライトはユーティリティ モードでライセンスを履行します。サブスクリプション ID で承認更新に回答し、サテライトに RUM レポートを送信できることをスマート エージェントに通知します。ユーティリティ ライセンスのエンタイトルメントが見つからない場合、サテライトは CSSM との即時同期を行わないことに注意してください。利用できない場合は、代わりにプリペイド モードで認証要求を履行します。
9. スマート エージェントは RUM レポートを送信します。
10. サテライトはスマート エージェントから RUM レポートを受け取ります。
11. サテライトは 8 時間ごとにスマート レシーバに RUM レポートを送信します。
12. スマート レシーバは 1 日 1 回請求のために SBP に送信します。
13. サテライトは 90 日間分の raw データを保存します（ストレージ要件のために小さいチャンクでエクスポートします）。

ユーティリティ対応サテライトの同期方法の変更

次が当てはまる場合、サテライトはユーティリティ モードです。

1. デバイスがサテライトに登録され、ユーティリティが有効になっている。
2. 使用量タイプのエンタイトルメント タグを使用している製品インスタンスが少なくとも 1 つある。
3. サテライトがネットワーク同期モードになっている。
4. サテライトが過去 30 日間以内にスマート レシーバと同期している。

サテライトがネットワーク同期モードでなければならない理由は、RUM レポートが定期的にスマート レシーバに送信されない限り、お客様に請求できないためです。すなわち、これを機能させるためには、サテライトを手動同期モードにすることはできません。したがって、サテライトがユーティリティ モードのときは、[手動同期 (Manual Synchronization)] オプションは無効になります。この [手動同期 (Manual Synchronization)] オプションは、サテライトがユーティリティ モードで実行されていないときに有効になります。1 時間ごとにサテライトがユーティリティ モードかどうかチェックされ、それに応じてネットワーク同期または手動同期のオプションが反映されます。

さらに、CSSM への同期が 1 日に 1 回実行されます。お客様は毎日のスケジュールされた同期の時間を変更できますが、デフォルトは午後 10 時から午前 2 時までのランダムな時間です (UTC)。「オンデマンド」要求時には、サテライトは CSSM とスマート レシーバに同時に同期します。スケジュールされた同期では、サテライトは設定されたスケジュール時間に CSSM への同期を実行し、ユーザがポストペイド ライセンスの使用を開始した時間から 8 時間後、およびそれから 8 時間ごとに ER への同期を実行します。サテライトからスマート レシーバへの同期は、サテライトから集約 RUM レポートを送信するためのものです。このレポートは請求のために SBP に転送されます。さらに、ユーティリティ モードでの運用を継続するための要件として、30 日以内にサテライトをスマート レシーバと同期させる必要があります。この要件が満たされない場合、サテライトはライセンスをプリペイド モードで履行します。

スマート エージェントからの承認更新

スマート エージェントの承認要求と更新フローは、製品がユーティリティ モードで実行されても変更ありません。このモードでは、スマート エージェントは RUM レポートを定期的にサテライトに送信し、90 日間の承認更新の期限は引き続き有効です。

ユーティリティ モードでのサテライトの UI とライセンスレポート

ユーティリティをサポートするには、サテライトの UI とレポートを変更して、ポストペイド請求タイプと使用状況レポートを示す必要があります。いくつかの UI の変更点があります。

バーチャル アカウントの下の [ライセンス (License)] タブ:

- [請求 (Billing)]、[購入済み (Purchased)]、[使用中 (In-Use)]、および [残高 (Balance)] の見出しがポストペイド ライセンスを反映します。
- [購入 (Purchase)] が [-] になっている場合は、特定の数量がないことを意味します。これは、お客様が毎月の使用量に応じて料金を支払い、特定の数量を購入する必要がないためです。
- [使用中 (In-Use)] は、これらのユーティリティ ライセンスを現在使用している製品インスタンスの数を示します。

また、このテーブルの情報をエクスポートするための CSV エクスポート オプションもあります。

日次または月次の使用レポート

サテライトは、製品からライセンス使用量の測定値を受信し、日次および月次のレポートに集約します。たとえば、日単位または月単位の製品インスタンスにより使用されるライセンス数が、このグラフにレポートされます。また、この日単位または月単位のデータを後処理のために CSV ファイルにエクスポートする機能もあります。

手順

- 選択したバーチャル アカウントから、
- [ライセンス (License)] をクリックします。
- ライセンス名のリンクをクリックして、グラフを表示します。
- グラフ内には、[概要 (Overview)]、[製品インスタンス (Product Instances)]、および [イベントログ (Event Log)] タブが表示されます。
- [概要 (Overview)] タブには、[日次 (Daily)] レポートまたは [月次 (Monthly)] レポートがあります。

日次レポートには、日付とそのライセンスを使用する製品インスタンスの数が表示されます。

製品インスタンスのライセンス使用

[製品インスタンス (Product Instances)] タブから、バーチャル アカウント内のライセンスを使用しているさまざまな製品インスタンスのレポートを取得することもできます。

手順

- [ライセンス (Licenses)] タブの下で、ライセンス名をクリックします。
- [製品インスタンス (Product Instances)] タブを選択すると、その使用量ベース ライセンスを使用している製品インスタンスと製品が表示されます。

ライセンス レポート

サテライトの [レポート (Reports)] タブ内に、[rawユーティリティデータ (Raw Utility Data)] エクスポート オプションが追加され、[ライセンス (Licenses)] レポートと [製品インスタンス (Product Instances)] レポートにポストペイドライセンスおよび関連付けられた請求タイプが追加されました。

手順

- [レポート (Reports)] タブから、
- [ライセンス (Licenses)] をクリックします。
- [レポートの実行 (Run Report)] または [CSVにエクスポート (Export to CSV)] または [XLSにエクスポート (Export to XLS)] をクリックします。

raw ユーティリティ データ

お客様は、元は JSON 形式の raw ユーティリティ データを CSV にエクスポートできます。1 時間に 4 回、または 4 時間ごとに 16 回のデータ測定が行われるため、CSV にはこの情報を格納するための繰り返し行があることに注意してください。

手順

1. [レポート (Reports)] タブの下で、[raw ユーティリティ データ (Raw Utility Data)] をクリックします。
2. [名前 (Name)]、[説明 (Description)]、および [開始日/終了日 (From/To)] の日付を入力します。[終了日 (To)] は今日の日付で、[開始日 (From)] は今日から 30 日以内です。
3. サテライトのスペースは限られているため、登録済みデバイスが多数ある場合、サテライトはエクスポートできる日付のリストを順次表示します。
4. 各期間の各リンクをクリックしてエクスポートします。

ユーティリティのためのスマート エージェントの運用変更

製品は、ユーティリティ データをレポートするために、新しいスマート エージェント (バージョン 4.3) を統合する必要があります。すでに 4.3 よりも前のスマート エージェントを統合している場合は、可能な限り早く 4.3 に移行する必要があります。後方互換性のために、古いスマート エージェントを使用する製品は新しいユーティリティ対応サテライトと引き続き連携します。

ユーティリティ対応サテライトと連携するユーティリティ非対応製品 (プリペイド モードで実行) :

1. 製品は、デフォルトの SCH 設定を引き続き使用します。
2. 以前と同様に製品をサテライトに登録します。

ユーティリティ対応サテライトと連携するユーティリティ対応製品 (新しい 4.3 スマート エージェントを統合済み)

1. **license smart utility** コマンドを使用して、製品でスマート ユーティリティを明示的に有効にする必要があります。
2. **license smart transport smart** を使用して、製品でスマート トランスポートを明示的に有効にする必要があります。

3. `license smart url <url>` コマンドを使用して、製品でスマート ユーティリティのトランスポート URL を明示的に設定する必要があります。この URL はサテライトの IP アドレスまたは FQDN です。

ユーティリティのためのサテライトの運用変更

- サテライトはネットワーク モードで設定する必要があります。
 - サテライトがユーティリティ モードのときは、サテライト UI で [手動同期 (Manual Synchronization)] がグレー表示されます。
 - ユーティリティの測定値を送信する製品がなく、サテライトがプリペイド (非ユーティリティ) モードで動作している場合は、[手動同期 (Manual Synchronization)] の UI を再度有効にできます (グレー表示されません)。
- ユーティリティ サブスクリプションがなく、製品がユーティリティを使用しようとした (ユーティリティ データをサテライトに送信する) 場合、サテライトはプリペイドとして履行します。

ユーティリティ非対応サテライトと連携するユーティリティ対応製品

サテライトが旧バージョンで、ユーティリティをサポートしていない場合、サテライトは以前と同様に承認要求をプリペイドとして履行します。

完全同期

以前のサテライト バージョンでは、[すぐに同期 (Sync Now)] により、オンデマンドでの CSSM とのネットワーク同期ができました。これは、部分的な (標準的な) 同期として開始されます (差分情報のみが送信されます)。CSSM でライセンスの不一致を解消するために (サテライトと CSSM のすべてのデータが送信される) 完全同期が必要な場合は、完全同期が要求されます。この時点で、基本的な完全同期がサテライトによって実行されます。一方で、ユーザは [手動同期 (Manual Synchronization)] をクリックし、[標準同期 (Standard Synchronization)] または [完全同期 (Full Synchronization)] を選択することで、完全同期を開始できます。

ユーティリティ モデルでは手動同期モードがないため、完全同期を提供するために、ネットワーク モードのときにユーザが [すぐに同期 (Sync Now)] を選択すると、自動的に完全同期が行われます。

ユーティリティ設定を有効にするための変更

1. 製品でユーティリティを有効にするには、次のようにコンフィギュレーション コマンドを入力します。

```
Sushma_spla_83#config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Sushma_spla_83(config)#lic
Sushma_spla_83(config)#license sm
Sushma_spla_83(config)#license smart ut
Sushma_spla_83(config)#license smart utility
Sushma_spla_83(config)#end
Sushma_spla_83#wr
```

2. 次のコマンドを使用して、スマート トランスポートを有効にする必要があります。

```
sushma_spla_83(config)#license smart transport smart
sushma_spla_83(config)#
```

3. 次のようなコンフィギュレーション コマンドを使用し、サテライトの IP アドレスを指定して、スマート トランスポート URL を設定する必要があります。

```
Sushma_spla_83(config)#lic
Sushma_spla_83(config)#license sm
Sushma_spla_83(config)#license smart ur
Sushma_spla_83(config)#license smart url http://172.20.222.90/Transportgateway/services/DeviceRequestHandler
Sushma_spla_83(config)#end
Sushma_spla_83#wr
```

次の show tech support コマンドは、デバイスでユーティリティが有効になっていることを示します。

```
Smart Licensing Status
=====

Smart Licensing is ENABLED

Registration:
  Status: UNREGISTERED
  Export-Controlled Functionality: Not Allowed

License Authorization:
  Status: EVAL MODE
  Evaluation Period Remaining: 89 days, 3 hours, 50 minutes, 5 seconds

Utility:
  Status: ENABLED
  Utility report:
    Last success: Sep 19 20:55:57 2017 UTC
    Last attempt: SUCCEEDED on Sep 19 20:55:57 2017 UTC
    Next attempt: Sep 20 04:55:57 2017 UTC

  Utility report status:
    Last success: Sep 19 20:42:19 2017 UTC
    Last attempt: SUCCEEDED on Sep 19 20:42:19 2017 UTC
    Next attempt: Sep 20 04:42:19 2017 UTC
```

トランスポートは、サテライトの IP アドレスである URL とともに、スマート トランスポートとして表示されます。

```
Transport:
  Type: Smart
  URL: http://172.20.222.90/Transportgateway/services/DeviceRequestHandler
```

これで、この製品はユーティリティの測定値をサテライトにレポートできるようになりました。次の手順では、製品を通常どおり登録します。

ユーティリティ対応 Smart Software Manager サテライト Classic への移行

新規のお客様は、Smart Software Manager サテライト Classic 5.0 をインストールして、使用量課金機能や 4.x のその他の機能を活用できます。既存のお客様は 5.0 に移行可能で、次のリリースがサポートされています。

- 3.x.y => 5.0
- 4.x.y => 5.0

スタンドアロン サテライトの移行

1. 3.x または 4.x サテライトのバックアップを実行します。
 - a. [管理 (Administration)] ペインに移動します。
 - b. [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブを選択します。
 - c. [今すぐバックアップを実行 (Run Backup Now)] オプションをクリックします。
 - d. バックアップが完了すると、[バックアップファイル (Backup Files)] 下のリストにファイルが表示されます。
 - e. そのファイルのエントリに移動し、[アクション (Action)] をクリックします。
 - f. [ダウンロード (Download)] を選択し、このバックアップ ファイルを PC にダウンロードします。
2. CCO から サテライト 5.0 ISO をダウンロードします。
3. サテライト 5.0 ISO イメージを個別にインストールします。
 - a. 『サテライト Classic インストールガイド (satellite Classic Installation Guide) 』の「**Smart Software Manager サテライト Classic ISO のインストール**」の章の手順を使用します。
4. 手順 3 で設定された IP アドレスを使用して、ブラウザからサテライトを起動します。
 - a. [サテライトバックアップファイルからデータをインポートして設定 (Configure by importing data from a satellite backup file)] オプションを選択します。
 - b. 手順 1 のバックアップ ファイルを参照します。
 - c. [アップロード (Upload)] をクリックします。
 - d. [復元 (Restore)] をクリックします。
5. 登録を続け、サテライトを CSSM と同期します。

高可用性 (HA) の移行

1. 現在の 3.x または 4.x プライマリ サテライトのバックアップを実行します (プライマリ データベースはセカンダリと同じです)。
 - a. [管理 (Administration)] ペインに移動します。
 - b. [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブを選択します。
 - c. [今すぐバックアップを実行 (Run Backup Now)] オプションをクリックします。
 - d. バックアップが完了すると、[バックアップファイル (Backup Files)] 下のリストにファイルが表示されます。
 - e. そのファイルのエントリに移動し、[アクション (Action)] をクリックします。
 - f. [ダウンロード (Download)] を選択し、このバックアップ ファイルを PC にダウンロードします。
2. CCO から 5.0 ISO をダウンロードします。
3. サテライト 5.0 ISO をプライマリとして導入します。
4. 手順 3 で設定された IP アドレスを使用して、ブラウザからサテライトを起動します。
 - a. [サテライトバックアップファイルからデータをインポートして設定 (Configure by importing data from

- a. satellite backup file)] オプションを選択します。
 - b. 手順 1 のバックアップ ファイルを参照します。
 - c. [アップロード (Upload)] をクリックします。
 - d. [復元 (Restore)] をクリックします。
5. もう 1 つのサテライト 5.0 ISO をセカンダリとして導入します。
 6. 新たにアップグレードした 5.0 プライマリ サテライト システムに移動し、HA システムを再設定します。
 - a. [管理 (Administration)] ペインで [高可用性 (High Availability)] タブをクリックします。
 - b. [有効化/無効化 (Enable/Disable)] を選択して高可用性を有効にします。
 - c. [スタンバイIPアドレス (Standby IP Address)] を入力します。
 - d. [仮想IPアドレス (Virtual IP Address)] を入力します。
 - e. [保存 (Save)] をクリックします。
 7. VIP サテライトを同期する必要があります (同期が 2 回必要になることがあります) 。VA が正しくアップデートされていないというエラーを受信することがあります。

注 1 : 3.x から 5.0.1 へのアップグレード パスでは、一部の移行項目が欠如しています。DLC 機能を使用している場合は、3.x から 4.x へのアップグレードを行ってから、4.x から 5.0.1 へのアップグレードを実行することを推奨します。

注 2 : 5.0.1 へのアップグレード後に直接 PI の更新を試みる場合、スマート エージェントのバグのために PI が未登録になることがあります。5.0.x へのアップグレード後に SSM サテライトの証明書が無効の場合は、以下の手順を実行します。

1. SSMS サテライト コマンド ライン (バックエンド) にログインし、シェル スクリプトに以下の内容を入力して、root (sudo -s) としてこのスクリプトを実行します。

```
#!/bin/bash
mysql -uroot -pciscoLab123 rhodes <<EOF
SET autocommit = 0;
update collector_instances set tg_registered = false;
update collector_instances set extra = REPLACE(extra, 'is_ssl_cert_exist: true',
'is_ssl_cert_exist: false');
COMMIT;
EOF
```

2. サテライトを CSSM と同期し、それが成功したかどうかを確認します。
3. 非 HA 環境で、「systemctl restart nginx」コマンドを使用して nginx を再起動します。
HA 環境で次のコマンドを実行します。

```
pcs cluster stop -all
pcs cluster start --all
```

トラブルシューティング

[クライアント登録に関する問題](#)

[手動同期に関する問題](#)

[ネットワーク同期に関する問題](#)

[HA クラスタの障害が発生したノードの置き換え](#)

[HA クラスタの管理](#)

クライアント登録に関する問題

クライアント登録プロセスで問題が発生した場合は、次の対処方法を試してください。

- サテライト設定が正しいことを確認します。
『Smart Software Manager サテライト Classic ユーザ ガイド』 (<http://www.cisco.com/web/ordering/smart-software-manager/index.html>) で、[管理 (Administration)] ペインの [ネットワーク (Network)] タブを参照してください。
- クライアントの Call Home の設定でサテライトを参照していることを確認します。
『Smart Software Manager satellite Classic User Guide (Smart Software Manager サテライト Classic ユーザ ガイド)』の「Sample of SCH Profile to Use Smart Software Manager satellite Classic on the Cloud Service Router (クラウド サービス ルータ上で Smart Software Manager サテライト Classic を使用するための SCH プロファイルのサンプル)」を参照してください。
- サテライトからトークンが生成されていることを確認します。
24 ページの「製品インスタンスの登録トークンの作成」を参照してください。

ファイアウォール設定で、次のサテライト間のトラフィックを許可する必要があります。

- サテライト IP アドレス ポート 443 および 80
 - HTTPS を使用している場合は 443
 - サテライトとの通信に HTTP を使用している場合は 80
- サテライト ポータルにアクセスするための IP アドレス ポート 8443

手動同期に関する問題

手動同期プロセスで問題が発生した場合は、次の対処方法を試してください。

- サテライトの時刻が正しいことを確認します。

『Smart Software Manager サテライト Classic インストレーション ガイド』 (<http://www.cisco.com/web/ordering/smart-software-manager/index.html>) の「Verifying Time Sync with the NTP (NTP による時刻の同期の確認)」を参照してください。

- ポート 443 (HTTPS) がファイアウォールを通過できるようになっていることを確認します。
- 関連付けられたバーチャル アカウントのライセンスを確認します。
- YAML (要求/応答) ファイルのアップロード先/ダウンロード先のサテライトが正しいことを確認します。これを確認するには、同期するサテライトの名前がファイル名に含まれていることを確認します。
- 前述したように、手動で標準同期を実行した後で、完全な手動同期を再度実行するように要求される場合があります。

ネットワーク同期に関する問題

ネットワーク同期プロセスで問題が発生した場合は、次の対処方法を試してください。

- ポート 443 (HTTPS) がファイアウォールを通過できるようになっていることを確認します。
 - tools.cisco.com ポート 443
 - api.cisco.com ポート 443
- 設定された DNS サーバにサテライトから到達できることを確認します。
- cisco.com にサテライトから到達できることを確認します。
- サテライトの時刻が正しいことを確認します。

『Smart Software Manager サテライト Classic インストレーション ガイド』 (<http://www.cisco.com/web/ordering/smart-software-manager/index.html>) の「Verifying Time Sync with the NTP (NTP による時刻の同期の確認)」を参照してください。

- 関連付けられたバーチャル アカウントに必要なライセンスがあることを確認します。

HA クラスターの障害が発生したノードの置き換え

HA クラスターのノードの 1 つがダウンし、それが回復不可能な障害の場合には、サテライトの HA ノードの以前のスナップショットまたはクローンを使用して、障害が発生したノードを新しいノードに置き換えることができます。アクティブ (ノード 1) OVA とスタンバイ (ノード 2) OVA 両方のスナップショットまたはクローンを作成することを推奨します。

ノード 1 OVA のクローンを使用したノード 1 のリカバリ

1. 置き換えるノードに対応する、以前に作成した適切なスナップショットまたは複製された OVA を選択します。

2. OVA がネットワークに接続されていないことを確認します。
3. 置き換える OVA が、障害の発生したノード 1 と同じ IP、DNS、NTP、およびホスト名の設定であることを確認します。
4. ノードをネットワークから切断する必要があります。
5. ノード 1 のシェルにログインし、「pcs status」コマンドを使用して Pacemaker のステータスをチェックします。
6. 「pcs status」の出力が次のようになるまで待ちます。


```

- virtual_ip          Stopped
- tomcat              Stopped
- zabbix_server      Stopped
- httpd_service      Stopped
      
```
7. 次のコマンドを使用して、次のシステム サービスを停止します。


```

[satellite-node-01 ~]# pcs cluster stop [ip address of Node-1]
      
```
8. 次のサービスが停止していることを確認します。


```

[satellite-node-01 ~]# systemctl status mysql
[satellite-node-01 ~]# systemctl status tomcat
[satellite-node-01 ~]# systemctl status drbd
      
```
9. ノード 1 で、DRBD 同期サービスを開始します。


```

[satellite-node-01 ~]# systemctl start drbd
[satellite-node-01 ~]# drbdadm secondary drbd1
      
```
10. ノード 1 をネットワークに接続します。
11. 「drbd-overview」コマンドを使用して、ノード 1 がスタンバイ サテライトになっていることを確認します。


```

[satellite-node-01 ~]# drbd-overview
1:drbd1/0 Connected Secondary/Primary UpToDate/UpToDate
      
```
12. DRBD ディスク複製ノード 1 でエラーが発生した場合は、追加の手順を実行する必要があります。


```

[satellite-node-01 ~]# drbdadm detach drbd1
[satellite-node-01 ~]# drbdadm create-md drbd1
[satellite-node-01 ~]# drbdadm attach drbd1
[satellite-node-01 ~]# drbdadm -- --discard-my-data connect drbd1
[satellite-node-01 ~]# drbdadm connect drbd1
      
```

 先に進む前に、DRBD 同期が完了していることを確認します。
13. ノード 2 で、次のコマンドを発行します。


```

[satellite-node-02 ~]# pcs cluster stop -all
      
```
14. ノード 1 で、次のコマンドを発行します。


```

[satellite-node-01 ~]# drbdadm primary drbd1
[satellite-node-01 ~]# pcs cluster start -all
      
```
15. ノード 1 で、次のコマンドを使用して、リソースが「satellite-node-01」に関連付けられていることを、pcs のステータスが表示しているか確認します。


```

[satellite-node-01 ~]# pcs status
      
```
16. これで手順は完了です。

ノード 2 OVA のクローンを使用したノード 2 のリカバリ

1. 置き換えるノードに対応する、以前に作成した適切なスナップショットまたは複製された OVA を選択します。
2. 置き換える OVA が、障害の発生したノード 1 と同じ IP、DNS、NTP、およびホスト名の設定であることを確認します。
3. ノード 1 で、「drbd-overview」コマンドを使用して DRBD 同期をチェックします。


```
[satellite-node-01 ~]# drbd-overview
1:drbd1/0 SyncSource Primary/Secondary UpToDate/Inconsistent
/shared/drbd/mysql xfs 122G 641M 121G 1%
[=====>...] sync'ed: 85.0% (26248/163512)K
[satellite-node-01 ~]# drbd-overview
1:drbd1/0 Connected Primary/Secondary UpToDate/UpToDate /shared/drbd/mysql xfs
122G 641M 121G 1%
```
4. DRBD 同期が完了したら、次のコマンドを使用してノード 1 の HA クラスタを再起動します。


```
[satellite-node-01 ~]# pcs cluster stop --all
[satellite-node-01 ~]# pcs cluster start -all
```
5. これで手順は完了です。

注：クラスタが再起動を実行するため、短時間の停止が発生する可能性があります、これは正常です。

バックアップが利用できないときのノードのリカバリ

1. 障害の発生したノードのバージョンと一致する CCO から OVA を取得します。
2. 置き換える OVA を展開します。
3. 置き換える OVA を、障害の発生したノードと同じ IP、DNS、NTP、およびホスト名に設定します。
4. 次のコマンドを使用して、残存ノード（置き換えられていないノード）からファイルをコピーします。


```
scp -r <ip address of surviving node>:/etc/drbd.d/drbd1.res /etc/drbd.d/drbd1.res
scp -r <ip address of surviving node>:/etc/corosync/corosync.conf
/etc/corosync/corosync.conf
```
5. 残存ノードで、次のコマンドを発行します。


```
pcs cluster auth <IP address of the new node> -u hacluster -p 37HRv[wkYp?T
```
6. 新しいノードで、次のコマンドを実行します。


```
systemctl start drbd
```
7. 新しいノードで「drbd-overview」コマンドを使用して、新しいノードがセカンダリになったことを確認します。


```
# drbd-overview
1:drbd1/0 Connected Secondary/Primary UpToDate/UpToDate
```
8. DRBD ディスク複製ノード 1 でエラーが発生した場合は、追加の手順を実行する必要があります。


```
# drbdadm detach drbd1
# drbdadm create-md drbd1
# drbdadm attach drbd1
# drbdadm -- --discard-my-data connect drbd1
# drbdadm connect drbd1
```

- 先に進む前に、DRBD 同期が完了していることを確認します。
9. 残存ノードで、次のコマンドを実行します。

```
pcs cluster stop -all
```
 10. 新しいノードで `satellite-node-01` を置き換える場合は、次のコマンドを発行します。

```
# drbdadm primary drbd1
```
 11. 新しいノードで、次のコマンドを発行します。

```
# pcs cluster start -all
```
 12. 残るノードで次のコマンドを使用して、新しいノードを使用してクラスタを再起動します。

```
# pcs cluster start --all
```
 13. これで手順は完了です。

注：DRBD が残るノードから新しい OVA にデータを複製している間は、サテライトの HA クラスタにまだアクセスできません。このプロセスには相当な時間がかかる場合があります。新しく追加されたノードへのフェールオーバーは、同期が完了したときにのみ行うことができます。「[サテライトの HA 同期の確認](#)」のセクションで説明されている手順を使用して同期をチェックできます。

サテライトの HA クラスタの管理

Pacemaker サービスの再起動

アクティブ ノードがオンラインに戻ったときに、Pacemaker がすべてのリソースを適切に開始しないことがあります。機能上の問題が発生した場合は、次のコマンドを実行します。

- ```
pcs cluster stop --all
```
- ```
pcs cluster start -all
```

Pacemaker サービスの確認

Pacemaker サービスは、次のように「`pcs status`」コマンドを使用して確認できます。

```
[satellite-node-01 ~]# pcs status
Cluster name: ha_cluster
WARNING: corosync and pacemaker node names do not match (IPs used in setup?)
Stack: corosync
Current DC: satellite-node-02 (version 1.1.15-11.e17_3.2-e174ec8) - partition with
quorum
Last updated: Tue Jan 17 10:48:01 2017          Last change: Tue Jan 17 10:16:58 2017 by
```

```

hacluster via crmd on satellite-node-01

2 nodes and 8 resources configured

Online: [ satellite-node-01 satellite-node-02 ]

Full list of resources:

virtual_ip      (ocf::heartbeat:IPaddr2):      Started satellite-node-01
tomcat (ocf::heartbeat:tomcat):      Started satellite-node-01
mysql_service  (ocf::heartbeat:mysql):          Started satellite-node-01
zabbix_server  (systemd:zabbix-server):         Started satellite-node-01
httpd_service  (ocf::heartbeat:apache):         Started satellite-node-01
Master/Slave Set: mysql_clone_data [mysql_data]
    Masters: [ satellite-node-01 ]
    Slaves:  [ satellite-node-02 ]
mysql_fs       (ocf::heartbeat:Filesystem):  Started satellite-node-01
Daemon Status:
    corosync: active/enabled
    pacemaker: active/enabled
    pcsd: active/enabled

```

サテライトの HA 同期の確認

サテライトの HA クラスタの同期ステータスは、「drbd-overview」コマンドで確認できます。

同期されたクラスタの例

```

[satellite-node-01 ~]# drbd-overview
1:drbd1/0 Connected Secondary/Primary UpToDate/UpToDate

```

同期されていないクラスタの例

```

[satellite-node-01 ~]# drbd-overview
1:drbd1/0 SyncTarget Secondary/Primary Inconsistent/UpToDate
    [>.....] sync'ed: 0.1% (124472/124548)M

```

付録

サテライトへの製品インスタンスの登録

サテライトが動作可能になったら、スマート対応製品インスタンスをサテライトに登録し、ライセンス消費について報告することができます。この登録は、製品のインスタンスとサテライト間の登録であり、サテライトと Cisco Smart Software Manager 間の登録とは異なります。

スマート対応製品インスタンスは、製品に応じて CLI または GUI のいずれかを通じてサテライトに登録されます。詳細については、特定のプラットフォームに対応する設定ガイドを参照してください。CSR Smart Licensing の設定については、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/routers/csr1000/software/configuration/csr1000Vswcfg/licensing.html> を参照してください。

次のコマンドが、それぞれのルータ プラットフォームで設定されていることを確認してください。

- IOS-XR プラットフォームの場合、`Cr1 optional`
- IOS/XE プラットフォームの場合、`revocation-check none`

クラウド サービス ルータ上で Smart Software Manager サテライト Classic を使用するためのサンプル SCH プロファイル
手順

1. **enable**
特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
2. **configure terminal**
グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
3. **call-home**
Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
4. **contact-email-addr *email address***
有効な電子メール ID を指定します。
5. **profile *name***
プロファイル名を指定します。

注：CiscoTAC-1 がデフォルト プロファイルです。

6. **宛先転送 http** または **宛先転送 https** を選択します。
HTTP または HTTPS への転送を設定します。さらに、選択に応じて下記のサンプル a (HTTP の場合) かサンプル b (HTTPS の場合) を使用します。
 - a) **宛先アドレス http** には TG からの http を使用します。
SCH 転送ゲートウェイ URL にアクセスします。

注：宛先 URL は、`http://<ip-address>:80/Transportgateway/services/DeviceRequestHandler` です。

b) 宛先アドレス https には TG からの https を使用します。

SCH 転送ゲートウェイ URL にアクセスします。

注：宛先 URL は、`https://<ip-address>:443/Transportgateway/services/DeviceRequestHandler` です。

CSPC 環境で、PfSense で NAT を設定している場合は、PfSense 設定の宛先ポート番号を使用してサテライトへの製品登録を行います。たとえば、サテライト製品インスタンスの登録用にポート 7443 を設定すると、トランスポート設定は次のようになります。

宛先 URL は、`https://<ip-address>:7443/Transportgateway/services/DeviceRequestHandler` です。

7. **active**

手順 5 で指定したプロファイルをアクティブにします。

8. **exit**

現在のコンフィギュレーション モードを保存して終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

9. **end**

特権 EXEC モードに戻ります。

10. **wr**

設定を保存します。

以下の設定は、HTTP 用の CSR のサンプルです。call-home プロファイル設定については、プラットフォーム固有の設定を参照してください。

例：

```
Router#configure terminal
Router(config)#call-home
Router(cfg-call-home)#contact-email-addr aaa@cisco.com
Router(cfg-call-home)#profile CiscoTAC-1
Router(cfg-call-home-profile)#active
Router(cfg-call-home-profile)#destination transport-method http
Router(cfg-call-home-profile)#no destination transport-method email
Router(cfg-call-home-profile)#destination address http
Router (cfg-call-home-
profile)#http://172.19.76.177:80/Transportgateway/services/DeviceRequestHandler
```

以下の設定は、HTTPS 用の CSR のサンプルです。call-home プロファイル設定については、プラットフォーム固有の設定を参照してください。サテライト 3.0.x 以降、ポート番号と URL は不要になりました。

例：

```
Router# configure terminal
Router (config) #call-home
Router (cfg-call-home) #contact-email-addr aaa@cisco.com
Router (cfg-call-home) #profile CiscoTAC-1
Router (cfg-call-home-profile) #active
Router (cfg-call-home-profile) #destination transport-method http
Router (cfg-call-home-profile) #no destination transport-method email
Router (cfg-call-home-profile) #destination address https
Router (cfg-call-home-profile) #https://172.19.76.177:443/Transportgateway/services/DeviceRequestHandler
```

ASR9K と CSR の場合、以下のように、Cisco SSM の URL を必ず削除してください。

宛先アドレスなし <https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService>

サテライトの URL と以下に示すコマンドを追加します。

```
revocation-check none
```